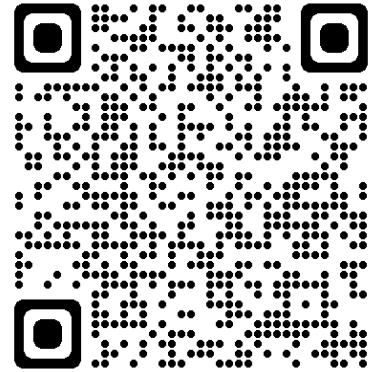


論語  
孔子  
(日文)



篇目

論語卷第一	學而第一	· · · · ·	3
	為政第二	· · · · ·	4
論語卷第二	八佾第三	· · · · ·	6
	里仁第四	· · · · ·	7
論語卷第三	公冶長第五	· · · · ·	8
	雍也第六	· · · · ·	11
論語卷第四	述而第七	· · · · ·	13
	泰伯第八	· · · · ·	15
論語卷第五	子罕第九	· · · · ·	17
	鄉黨第十	· · · · ·	19
論語卷第六	先進第十一	· · · · ·	21
	顏淵第十二	· · · · ·	23
論語卷第七	子路第十三	· · · · ·	26
	憲問第十四	· · · · ·	29
論語卷第八	衛靈公第十五	· · · · ·	32
	季氏第十六	· · · · ·	34
論語卷第九	陽貨第十七	· · · · ·	36
	微子第十八	· · · · ·	38
論語卷第十	子張第十九	· · · · ·	40
	堯日第二十	· · · · ·	42

學而（がくじ）第一

1. 子曰わく、学びて時にこれを習う、亦た悦ばしからずや。朋あり、遠方より来たる、亦た楽しからずや。人知らずして慍（うら）みず、亦た君子ならずや。
2. 有子が曰わく、其の人と為りや、孝弟（こうてい）にして上を犯すことを好むものは、鮮なし。上を犯すことを好まずして乱を作す事を好む者は、未だこれ有らざるなり。君子は本を務（つと）む。本立ちて道生ず。孝弟なる者は其れ仁の本たるか。
3. 子曰わく、巧言令色、鮮なし仁。
4. 曾子曰わく、吾れ日に三度吾が身を省（かえり）みる。人の為に謀（はか）りて、忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを伝うるか。
5. 子曰わく、千乗の国を導くに、事を敬して信、用を節して人を愛し、民を使うに時を以てす。
6. 子曰わく、弟子（ていし）、入りては則ち孝、出でては則ち弟、謹しみては信あり、汎（ひろ）く衆を愛して仁に親しみ、行いて余力あれば、則ち以て文を学ぶ。
7. 子夏が曰く、賢を賢として色に易（か）え、父母に事えて能く其の力を竭（つく）し、君に事えて能く其の身を致し、朋友と交わるに言いて信あらば、未だ学ばずと曰うと雖ども、吾れは必ずこれを学びたりと謂わん。
8. 子曰わく、君子、重かざれば則ち威あらず。学べば則ち固ならず。忠信を主とし、己に如かざる者を友とすること無かれ、過ちては則ち改むるに憚（はばか）ること勿かれ。
9. 曾子曰わく、終わりを慎しみ遠きを追えば、民の徳、厚きに帰す。
10. 子禽、子貢に問いて曰く、夫子の是の邦に至るや、必ず其の政を聞く。これを求めたるか、抑抑（そもそも）これを与えたるか。子貢が曰く、夫子は温良恭儉讓（おんりょうきょうけんじょう）、以てこれを得たり。夫子のこれを求むるや、其れ諸れ人のこれを求むるに異なるか。
11. 子曰わく、父在せば其の志しを觀、父没すれば其の行いを觀る。三年、父の道を改むること無きを、孝と謂うべし。
12. 有子が曰く、礼の用は和を貴しと為す。先王の道も斯れを美と為す。小大これに由（よ）るも行われざる所あり。和を知りて和すれども、礼を以てこれを節せざれば、亦た行われず。
13. 有子が曰わく、信、義に近づけば、言復むべし。恭、礼に近づけば、恥辱に遠ざかる。囚ること、其の親を失わざれば、亦た宗とすべし。
14. 子曰わく、君子は食飽かんことを求むること無く、居安からんことを求むること無し。事に敏にして言に慎み、有道に就きて正す。学を好むと謂うべきのみ。
15. 子貢が曰く、貧しくて諂（へつら）うこと無く、富みて驕ること無きは、何如。子曰わく、可なり。未だ貧しくして道を楽しみ、富みて礼を好む者には若かざるなり。子貢が曰く、詩に云う、切するが如く、磋するが如く、琢するが如く、磨するが如しとは、其れ斯れを謂うか。子曰わく、賜や、始めて与に詩を言うべきのみ。諸（こ）れに往を告げて来を知る者なり。
16. 子曰わく、人の己れを知らざることを患えず、人を知らざることを患う。

## 為政（いせい）第二

1. 子曰わく、政を為すに徳を以てすれば、譬（たと）えば、北辰の其の所に居て、衆星のこれに共するがごとし。
2. 子曰わく、詩三百、一言以てこれを蔽（おお）う、曰く思い邪（よこしま）なし。
3. 子曰わく、これを導くに政を以てし、これを斉（ととの）うるに刑を以てすれば、民免（まぬが）れて恥ずること無し。これを導くに徳を以てし、これを斉うるに礼を以てすれば、恥ありて且つ格（ただ）し。
4. 子曰わく、吾十有五にして、学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従って、矩（のり）を踰（こえ）ず。
5. 孟懿子（もういし）、孝を問う。子曰わく、違ふこと無し。樊遲（はんち）、御たり。子これに告げて曰く、孟孫、孝を我に問う。我答えて曰く、違ふこと無しと。樊遲が曰く、何の謂いぞや。子曰わく、生けるにはこれに事うるに礼を以てし、死すればこれを葬るに礼を以てし、これを祭るに礼を以てす。
6. 孟武伯、孝を問う、子曰わく、父母には唯（た）だ其の疾（やまい）をこれ憂えしめよ。
7. 子游が、孝を問う。子曰わく、今の孝は能く養なうを謂う。犬馬に至るまで皆な能く養なうこと有り。敬せんずば、なにを以て別れん。
8. 子夏、孝を問う。子曰わく、色難し。事あれば、弟子其の勞に服し、酒食（しゅし）あれば先生に饌（せん）す。曾（すなわ）ち是れ以て孝と為さんや。
9. 子曰わく、吾れ回と言うこと終日、違わざること愚なるが如し。退きて其の私を省れば、亦た以て発するに足れり。回や愚ならず。
10. 子曰わく、其の以（な）す所を觀、其の由（よ）る所を觀、其の安んずる所を察すれば、人焉（いく）んぞ廋（かく）さんや、人焉んぞ廋さんや。
11. 子曰わく、故きを温めて新しきを知る、以て師と為るべし。
12. 子曰わく、君子は器ならず。
13. 子貢、君子を問う。子曰わく、先ず其の言を行い、而（しか）して後にこれに従う。
14. 子曰わく、君子は周して比せず、小人は比して、周せず。
15. 子曰わく、学んで思わざれば則ち罔（くら）し、思うて学ばざれば則ち殆（あやう）し。
16. 子曰わく、異端を攻（おさ）むるは、斯れ害のみ。
17. 子曰わく、由（ゆう）よ、女にこれを知ることを誨（おし）えんか。これを知ると為し、知らざるを知らざると為せ。是れ知るなり。
18. 子張、禄を干（もと）めんことを学ぶ。子曰わく、多くを聞きて疑わしきを闕（か）き、慎しみて其の余りを言えば、則ち、尤（とがめ）寡（すく）なし。多く見て殆（あや）うきを闕き、慎しみて其の余りを行えば、則つ悔（くい）寡なし。言に尤寡なく、行いに悔い寡なければ、禄は其の中に在り。
19. 哀公問うて曰く、何を為さば則ち民服せん。孔子對えて曰く、直きを挙げて諸れを枉（まが）れるに錯（お）けば則ち民服す。枉れるを挙げて諸れを直きに錯けば則ち民服せず。
20. 季康子問う。民をして敬忠にして以て勸（すす）ましむるには、これを如何。子曰わく、これに臨むに莊を以てすれば則ち敬す。孝慈なれば則ち忠あり、善を挙げて不能を教うれば則ち勸（すす）む。
21. 或るひと孔子に謂いて曰く、子奚（なん）ぞ政を為さざる。子曰わく、書に云う、孝なるかな惟（こ）れ孝。兄弟に友に、有政に施すと。是れ亦た政を為するなり。奚ぞ其れ政を為すことを為さん。
22. 子曰わく、人にして信なくば、其の可なることを知らざるなり。大車輓（げい）なく小車輓（げつ）なくんば、其れ何を以てかこれを行（や）らん。

23. 子張問う、十世知るべきや。子曰わく、殷に夏の礼に因る、損益する所知るべきなり。周は殷の礼に因る、損益する所知るべきなり。其れ或いは周を継ぐ者は、百世と雖（いえ）ども知るべきなり。
24. 子曰わく、其の鬼に非ずしてこれを祭るは、諂（へつら）いなり。義を見て為ざるは、勇なきなり。

論語 卷第二

八佾（はちいつ）第三

1. 孔子、季子を謂わく、八佾、庭に舞わず、是れをも忍ぶべくんば、孰（いず）れをか忍ぶべからざん。
2. 三家者、雍（よう）を以て徹す。子曰わく、相（たす）くるは維（こ）れ辟公（へきこう）、天子穆穆（ぼくぼく）と。奚（なん）ぞ三家の堂に取らん。
3. 子曰わく、人にして仁ならずんば、礼を如何。人にして仁ならずんば、樂を如何。
4. 林放、礼の本を問う。子曰わく、大なるかな問うこと。礼は其の奢（おご）らんよりは寧（おし）ろ儉せよ。喪は其の易（おさ）めんよりは寧ろ戚（いた）め。
5. 子曰わく、夷狄（いてき）に君あるは、諸夏（しよか）の亡きに如かざるなり。
6. 李氏、泰山に旅す。子、冉有（ぜんゆう）に謂いて曰わく、女救うこと能（あた）わざるか。対えて曰く、能わず。子曰わく、嗚呼、曾ち泰山を林放にも如かずと謂（おも）えるか。
7. 子曰わく、君子は争う所なし。必らずや射か。揖讓（ゆうじょう）して降り下り、而して飲ましむ。其の争いは君子なり。
8. 子夏問うて曰く、巧笑倩（こうしょうせん）たり、美目盼（はん）たり、素以て絢を為すとは、何の謂いぞや。子曰わく、絵の事は、素を後にす。曰く、礼は後か。子曰わく、予れを起こす者は商なり。始めて与に詩を言うべきのみ。
9. 子曰わく、夏の礼は吾れ能くこれを言えども、杞（き）は徵（しるし）とするに足らざるなり。殷の礼は吾れ能くこれを言えども、宗は徵とするに足らざるなり。文献、足らざるが故なり。足らざれば則ち吾れ能くこれを徵とせん。
10. 子曰わく、禘（てい）、既に灌（かん）してより往（のち）は、吾れこれを観ることを欲せず。
11. 或るひと禘の説を問う。子曰わく、知らざるなり。其の説を知る者の天下に於けるや、其れ諸れを斯に示（み）るが如きかと。其の掌（たなごころ）を指す。
12. 祭ること（いま）すが如くし、神を祭ること神在すが如くす。子曰わく、吾れ祭りに与（あずか）らざれば、祭らざるが如し。
13. 王孫賈（おんそんか）問うて曰く、其の奥に媚（こ）びんよりは、寧（おし）ろ寵（そう）に媚びよとは、何の謂いぞや。子曰わく、然らず。罪を天に獲（う）れば禱（いの）る所なきなり。
14. 子曰わく、周は二代に監（かんが）みて郁々乎（いくいくこ）として文なるかな。吾れは周に従わん。
15. 子、大廟（たいびょう）に入りて、事ごとに問う。或るひとの曰く、孰（たれ）か鄴（すう）人の子を礼を知ると謂うや、大廟に入りて、事ごとに問う。子これを聞きて曰わく、是れ礼なり。
16. 子曰わく、射は皮を主とせず。力の科を同じくせざるが為めなり。古えの道なり。
17. 子貢、告朔（こくさく）の餼羊（きよう）を去らんと欲す。子曰わく、賜や、女は其の羊を愛（おし）む、我は其の礼を愛む。
18. 子曰わく、君に事うるに礼を尽くせば、人（へつら）えりと為す。
19. 定公問う、君、臣を使い、臣、君に事うること、これを如何。孔子対えて曰く、君、臣を使うに礼を以てし、臣、君に事うるに忠を以てす。
20. 子曰わく、閔雎（かんしよ）は楽しみて淫（いん）せず、哀（かな）しみて傷（やぶ）らず。
21. 哀公、社を宰我（さいが）に問う。宰我、対えて曰く、夏后氏は松を以てし、殷人は柏を以てし、周人は栗（りつ）を以てす。曰く、民をして戦慄せしむるなり。子これを聞きて曰わく、成事（せいじ）は説かず、遂事（すいじ）は諫（いさ）めず、既往（きおう）は咎（とが）めず。

22. 子曰わく、管仲（かんちゅう）の器は小なるかな。或るひとの曰く、管仲は儉なるか。曰わく、管氏に三婦あり、官の事は撰（か）ねず、焉（いづく）んぞ儉なるを得ん。然らば則ち管仲は礼を知るか。曰わく、邦君、樹して門を塞ぐ、管氏も亦た樹して門を塞ぐ、邦君、両君の好（よしみ）を為すに反坫（はんてん）あり、管氏も亦た反坫あり、管氏にして礼を知らば、孰（たれ）か礼を知らざらん。
23. 子、魯の大師に楽を語りて曰わく、楽は其れ知るべきのみ、始めて作（おこ）すに翕（きゅう）如（じょ）たり。これを従（はな）ちて純如たり、皦（きょう）如たり、繹（えき）如たり。以て成する。
24. 儀の邦人、見（まみ）えんことを謂う。曰く、君子の斯に至るや、吾れ未だ嘗（かつ）て見ることを得ずんばあらざるなり。従者これを見えしむ。出でて曰く、二三子、何ぞ喪（そう）することを患（うれ）えんや。天下の道なきや久し。天将（まさ）に夫子（ふうし）を以て木鐸（ぼくたく）と為さんとす。
25. 子、韶（しょう）を謂わく、美を尽くせり、又た善を尽くせり。武を謂わく、美を尽くせり、未だ善を尽くさず。
26. 子曰わく、上（かみ）に居て寛（かん）ならず、礼を為して敬せず、喪に臨（のぞ）みて哀しまずんば、吾れ何を以てかこれを觀んや。

#### 里仁（りじん）第四

1. 子曰わく、仁に里（お）るを美（よ）しと為す。択（えら）んで仁に処（お）らずんば、焉んぞ知なることを得ん。
2. 子曰わく、不仁者は以て久しく約に処（お）るべからず。以て長く楽しきに処るべからず。仁者は仁に安んじ、知者は仁を利とする。
3. 子曰わく、惟（た）だ仁者のみ能く人を好み、能く人を悪（にく）む。
4. 子曰わく、旬（まこと）に仁に志せば、悪しきこと無し。
5. 子曰わく、富と貴（たつと）きとは、是れ人の欲する所なり。其の道を以てこれを得ざれば、処（お）らざるなり。貧しきと賤（いや）しきとは、是れ人の悪む所なり。其の道を以てこれを得ざれば、去らざるなり。君子、仁を去りて悪（いず）くにか名を成さん。君子は食を終うるの間にも仁に違ふこと無し。造次（ぞうじ）にも必らず是に於いてし、顛沛（てんぱい）にも必らず是に於いてす。
6. 子曰わく、我れ未だに仁を好む者、不仁を悪む者を見ず。仁を好む者は、以てこれに尚（くわ）うること無し。不仁を悪む者は、其れ仁を為す、不仁者をして其の身に加えしめず。能く一日も其の力を仁に用いること有らんか、我れ未だ力の足らざる者を見ず。蓋（けだ）しこれ有らん、我れ未だこれを見ざるなり。
7. 子曰わく、人の過（あやま）つや、各々其の党（たぐい）に於いてす。過ちを觀て斯に仁を知る。
8. 子曰わく、朝（あした）に道を聞きては、夕べに死すとも可なり。
9. 子曰わく、士、道に志して、悪衣悪食を恥ずる者は、未だ与（とも）に議（はか）るに足らず。
10. 子曰わく、君子の天下に於けるや、敵も無く、莫（ばく）も無し。義にこれ与に比（ひた）しむ。
11. 子曰わく、君子は徳を懐（おも）い、小人は土（ど）を懐う。君子は刑を懐い、小人は恵を懐う。
12. 子曰わく、利に放（よ）りて行えば、怨み多し。
13. 子曰わく、能く礼讓を以て国を為（おさ）めんか、何か有らん。能く礼讓を以て国を為めずんば、礼を如何。
14. 子曰わく、位なきことを患（うれ）えず、立つ所以（ゆえん）を患う。己を知ること莫きを患えず、知らるべきことを為すを求む。
15. 子曰わく、參（しん）よ、吾が道は一を以てこれを貫く。曾子曰わく、唯（い）。子出ず。門人問うて曰く、何の謂いぞや。曾子曰わく、夫子の道は忠恕（ちゅうじょ）のみ。
16. 子曰わく、君子は義に喩（さと）り、小人は利に喩る。
17. 子曰わく、賢を見ては齊（ひとし）からんことを思い、不賢を見ては内に自ら省（かえり）みる。
18. 子曰わく、父母に事（つか）うるに幾（ようや）くに諫（いさ）め、志の従わざるを見ては、又た敬して違わず、勞して怨みず。
19. 子曰わく、父母在（いま）せば、遠く遊ばず。遊ぶこと必ず方（つね）あり。
20. 子曰わく、三年、父の道を改むること無きを、孝と謂うべし。
21. 子曰わく、父母の年は知らざるべからず。一（いつ）は則ち以て喜び、一は則ち以て懼（おそ）る。
22. 子曰わく、古者（こしゃ）、言（げん）をこれ出ださざるは、躬（み）の逮（およ）ばざるを恥じてなり。
23. 子曰わく、約を以てこれを失する者は、鮮なし。
24. 子曰わく、君子は言に訥（とつ）して、行に敏ならんと欲す。
25. 子曰わく、徳は孤ならず。必ず鄰（となり）あり。
26. 子游曰わく、君に事うるに数数（しばしば）すれば、斯に辱しめられ、朋友に数数すれば、斯に疏んぜらる。



公冶長（こうやちょう）第五

1. 子、公冶長をの謂（のたま）わく、妻（めあ）わすべきなり、縲紲（るいせつ）の中に在りと雖も、其の罪に非ざるなりと。其の子を以てこれに妻わす。
2. 子、南容を謂わく、邦に道あれば廢てられず、邦に道なければ刑戮（けいりく）に免れんと。其の兄の子を以てこれに妻わす。
3. 子、子賤（しせん）を謂わく、君子なるかな、若（かくのごと）き人。魯に君子なかりせば、斯れ焉（いず）くにか斯れを取らん。
4. 子貢、問うて曰く、賜（し）や如何。子曰わく、女（なんじ）は器なり。曰く、何の器ぞや。曰わく、瑚璉なり。
5. 或るひとの曰く、雍（よう）や、仁にして佞（ねい）ならず。子曰わく、焉んぞ佞を用いん。人に禦（あた）るに口給（こうきゅう）を以てすれば、屢々（しばしば）人に憎まる。其の仁を知らず、焉んぞ佞を用いん。
6. 子、漆雕開（しつちょうかい）を仕えしむ。答えて曰く、吾れ斯れをこれ未だ信ずること能わず。子説（よろこ）ぶ。
7. 子曰わく、道行われず、桴（いかだ）に乗りて海に浮かばん。我れに従わん者は、其れ由なるか。子路これを聞きて喜ぶ。子曰わく、由や、勇を好むこと我に過ぎたり。材を取る所なからん。
8. 猛武伯問う、子路、仁なりや。子曰わく、知らざるなり。又た問う。子曰わく、由や、千乗の国、其の賦（ふ）を治めしむべし、其の仁を知らざるなり。求や如何。子曰わく、求や、千室の邑（ゆう）、百乗の家、これが宰（さい）たらしむべし、其の仁を知らざるなり。赤（せき）や如何。子曰わく、赤や、束帯して朝（ちょう）に立ち、賓客と言わしむべし、其の仁を知らざるなり。
9. 子、子貢に謂いて曰わく、女（なんじ）と回と孰れか愈（まさ）れる。対えて曰く、賜や、何ぞ敢（あ）えて回を望まん。回や一を聞いて以て十を知る。賜や一を聞いて以て二を知る。子曰わく、如かざるなり。吾れと女と如かざるなり。
10. 宰予、昼寝（ひるい）ぬ。子曰わく、朽木（きゅうぼく）は雕（ほ）るべからず、糞土の牆（かき）は朽（ぬ）るべからざる。予に於いてか何ぞ誅（せ）めん。子曰わく、始め吾れ人に於けるや、其の言を聴きて其の行を觀る。予に於いてか是れを改む。
11. 子曰わく、吾れ未だ剛者（ごうしゃ）を見ず。或るひと対えて曰く、申枨（しんとう）と。子曰わく、枨（とう）や慾なり。焉んぞ剛なることを得ん。
12. 子貢曰く、我れ人の諸れを我れに加えんことを欲せざるは、吾れ亦た諸れを人に加うること無からんと欲す。子曰わく、賜や、爾（なんじ）の及ぶ所に非（あら）ざるなり。
13. 子貢曰く、夫子の文章は、得て聞くべきなり。夫子の性と天道とを言うは、得て聞くべからざるなり。
14. 子路、聞くこと有りて、未だこれを行うこと能わざれば、唯だ聞く有らんことを恐る。
15. 子貢問うて曰く、孔文子（こうぶんし）、何を以てかこれを文と謂うや。子曰わく、敏にして学を好み、下問を恥じず、是（ここ）を以てこれを文と謂うなり。
16. 子、子産を謂わく、君子の道四つ有り。其の己れを行うや恭、其の上（かみ）に事うるや敬、其の民を養なうや恵、其の民を使うや義。
17. 子曰わく、晏平仲（あんぺいちゅう）、善く人と交わる。久しくこれを敬す。
18. 子曰わく、臧文仲（ぞうぶんちゅう）、蔡を居（お）く。節を山にし、梲（せつ）を藻（も）にす、何如ぞ其れ知ららん。
19. 子張問うて曰く、令尹子文（れいいんしぶん）、三たび仕えて令尹と為れども、喜ぶ色なし。三たびこれを已（や）められるとも、慍（いか）れる色なし。旧令尹の政、必ず以て新令尹に告ぐ。何如（いかん）。子曰わく、忠なり。曰く、仁なりや。曰わく、未だ知らず。、焉んぞ仁なることを得ん。崔子、齊の君を弑（しい）す。陳文子、馬十乗あり、棄ててこれを違（さ）る。他邦に至りて則ち曰く、猶（な）お吾が大夫崔子がごときなりと。これを違る。一邦（いっぽう）に至りて、則ち又た曰く、猶お吾が大夫崔子がごときなりと。これを違る。

何如。子曰わく、清し。曰わく、仁なりや。曰わく、未だ知らず、焉んぞ仁なることを得ん。

20. 季（き）文子、三たび思いて而る後に行う。子、これを聞いて曰わく、再びせば斯れ可なり。

21. 子曰わく、甯武士（ねいぶし）、邦に道あれば則ち知。邦に道なければ則ち愚。其の知は及ぶべきなり、其の愚は及ぶべからざるなり。

22. 子、陳に在して曰わく、帰らんか、帰らんか。吾が党の小子、狂簡、斐然（ひぜん）として章を成す。これを歳（さい）する所以（ゆえん）を知らざるなり。

23. 子曰わく、伯夷（はくい）・叔齊（しゅくせい）、旧悪を念（おも）わず、怨み是を用て希（まれ）なり。

24. 子曰わく、孰（たれ）か微生高（びせいこう）を直（ちよく）なりと謂う。或るひと醯（す）を乞う。諸れを其の鄰（となり）に乞いてこれを与（あた）う。

25. 子曰わく、巧言（こうげん）、令色（れいしよく）、足恭（すうきょう）なるは、左丘明（さきゅうめい）これを恥じず、丘も亦たこれを恥じず。怨みを匿（かく）してその人を友とするは、左丘明これを恥じず、丘も亦たこれを恥じず。

26. 顔淵、季路侍（じ）す。子曰わく、盍（なん）ぞ各々（おのおの）爾（なんじ）の志しを言わざる。子路が曰わく、願わくは車馬衣裘（しゃばいきゅう）、朋友と共にし、これを敝（やぶ）るとも憾（うら）み無けん。顔淵の曰わく、願わくは善に伐（ほこ）ること無く、労を施すこと無けん。子路が曰わく、願わくは子の志しを聞かん。子曰わく、老者はこれを安んじ、朋友はこれを信じ、少者はこれを懐（なつ）けん。

27. 子曰わく、已（や）んぬるかな。吾れ未だ能く其の過ちを見て内に自ら訟（せ）むる者を見ざるなり。

28. 子曰わく、十室の邑（ゆう）、必ず忠信、丘（きゅう）が如き者あらん。丘の学を好むに如かざるなり。

## 雍也（ようや）第六

1. 子曰わく、雍（よう）や南面せしむべし。
2. 仲弓（ちゅうや）、子桑伯子（しそうはくし）を問う。子曰わく、可なり、簡（かん）なり。仲弓が曰わく、敬に居（い）て簡を行ない、以て其の民に臨（のぞ）まば、亦可ならずや。簡に居て簡を行なう、乃（すな）わち大簡なること無からんや。子曰わく、雍（よう）の言、然り。
3. 哀公問う、弟子、孰（たれ）か学を好むと為す。孔子対（こた）えて曰わく、顔回なる者あり、学を好む。怒りを遷（うつ）さず、過ちを弔（ふた）たびせず。不幸、短命にして死せり。今や則ち亡（な）し。未だ学を好む者を聞かざるなり。
4. 子華（しか）、齊（せい）に使いす。冉子（ぜんし）、其の母の為めに粟（ぞく）を請う。子曰わく、これに釜（ふ）を与えよ。益さんことを請う。曰わく、これに庾（ゆ）を与えよ。冉子、これに粟五秉（へい）を与う。子曰わく、赤の齊に適（ゆ）くや、肥馬（ひば）に乗りて輕裘（けいきゅう）を衣（き）たり。吾これを聞く、君子は急を周（すく）うて富めるに繼がずと。
5. 原思（げんし）、これが宰（さい）たり、これに粟（ぞく）九百を与う。辞す。子曰わく、母（な）かれ、以て爾（なんじ）が隣里郷党（りんりきょうとう）に与えんか。
6. 子、仲弓を謂いて曰わく、犁牛（りぎゅう）の子、騂（あか）くして且つ角あらば、用うること勿（な）からんと欲すと雖（いえ）ども、山川其れ捨てんや。
7. 子曰わく、回や其の心三月（さんがつ）仁に違（たが）わず。其の余は則ち日月（ひびつきづき）に至るのみ。
8. 季康子（きこうし）問う、仲由（ちゅうゆう）は政に従わしむべきか。子曰わく、由や果（か）、政に従うに於いてか何を有らん。曰わく、賜は政に従わしむべきか。曰わく、賜や達、政に従うに於いて何か有らん。曰わく、求（きゅう）は政に従わしむべきか。曰わく、求や藝（げい）あり、政に従うに於いて何か有らん。
9. 李氏、閔子（びんし）褻（けん）をして費の宰たらしむ。閔子褻が曰わく、善く我が為めに辞せよ。如（も）し我を復（ま）たする者あらば、則ち吾れは必ず汶（ぶん）の上（ほとり）に在（あ）らん。
10. 伯牛（はくぎゅう）、疾あり。子、これを問い、牖（まど）より其の手を執（と）る。曰わく、これを亡ぼせり、命なるかな。斯の人にして斯の疾あること、斯の人にして斯の疾あること。
11. 子曰わく、賢なるかな回や。一簞（いったん）の食（し）、一瓢（いっぴょう）の飲（いん）、陋巷（ろうこう）に在り。人は其れ憂いに堪（た）えず、回や其の楽しみを改めず。賢なるかな回や。
12. 冉求が曰わく、子の道を説（よろこ）ばざるには非ず、力足らざればなり。子曰わく、力足らざる者は中道にして廢す。今女（なんじ）画（かぎ）れり。
13. 子、子夏に謂いて曰わく、女（なんじ）、君子の儒（じゅ）と為（な）れ。小人の儒と為ること無かれ。
14. 子遊、武城の宰（さい）たり。子曰わく、女、人を得たりや。曰わく、澹台（たんだい）滅明（めつめい）なる者あり、行くに徑（こみち）に由（よ）らず、公事に非ざれば未だ嘗（かつ）て偃（えん）の室に至らざるなり。
15. 子曰わく、孟子反、伐（ほこ）らず。奔（はし）って殿（でん）たり。将（まさ）に門に入らんとす。其の馬に策（むちう）って曰わく、敢えて後（おく）れたるに非ず、馬進まざるなり。
16. 子曰わく、祝鮀（しゅくだ）の佞（ねい）あらずして宗朝（そうちょう）の美あるは、難（かた）いかな、今の世に免れんこと。
17. 子曰わく、誰か能く出ずるに戸に由（よ）らざらん。何ぞ斯の道に由ること莫（な）きや。
18. 子曰わく、質、文に勝てば則ち野（や）。文、質に勝てば則ち史（し）。文質彬彬（ひんびん）として然る後に君子なり。
19. 子曰わく、人の生くるは、直（なお）し。これを罔（し）いて生くるは、幸いにして免るるなり。

20. 子曰わく、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。
21. 子曰わく、中人（ちゅうにん）以上には、以て上を語（つ）ぐべきなり。中人以下には、以てこれを語ぐべからざるなり。
22. 樊遲（はんち）、知を問う。子曰わく、民の義を務め、鬼神を敬してこれを遠ざく、知と謂うべし。仁を問う、曰わく、仁者は難（かた）きを先にして獲（う）るを後にす、仁と謂うべし。
23. 子曰わく、知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ。知者は動き、仁者は静なり。知者は楽しみ、仁者は寿（いのちなが）し。
24. 子曰わく、斉（せい）、一変せば魯に至らん。魯一変せば道に至らん。
25. 子曰わく、觚（こ）、觚ならず。觚ならんや、觚ならんや。
26. 宰我（さいが）、問うて曰く、仁者はこれに告げて井（せい）に仁ありと曰うと雖も、其れこれに従わんや。子曰わく、なんすれぞ其れ然（しか）らん。君子は逝（ゆ）かしむべきも、陷（おとしい）るべからざるなり。欺（あざむ）くべきも。罔（し）うべからざるなり。
27. 子曰わく、君子、博く文を学びて、これを約するに礼を以てせば、亦た以て畔（そむ）かざるべきか。
28. 子、南子を見る。子路説（よろこ）ばず。夫子（ふうし）これを失（ちか）って曰わく、予（わ）が否（すまじ）き所の者は、天これを厭（た）たん。
29. 子曰わく、中庸（ちゅうよう）の徳たるや、其れ至れるかな、民鮮（すく）なきこと久し。
30. 子貢が曰わく、如（も）し能く博く民に施して能く衆を濟（すく）わば、何如。仁と謂うべきか。子曰わく、何ぞ仁を事とせん。必ずや聖（せい）か。堯（ぎょう）舜（しゅん）も其れ猶（な）お諸（こ）れを病めり。夫（そ）れ仁者は己れ立たんと欲して人を立て、己れ達せんと欲して人を達す。能く近く取りて譬（たと）う。仁の方（みち）と謂うべきのみ。

述而（じゅつじ）第七

1. 子曰わく、述べて作らず、信じて古（いにし）えを好む。窃（ひそ）かに我が老彭（ろうほう）に比す。
2. 子曰わく、黙（もく）してこれを識（しる）し、学んで厭（いと）わず、人を誨（おし）えて倦（う）まず。何は我れに有らんや。
3. 子曰わく、徳の脩（おさめ）ざる、学の講ぜざる、義を聞いて徒（うつ）る能わざる、不善の改むる能わざる、是れ我が憂いなり。
4. 子の燕居（えんきょ）、申申（しんしん）如（じょ）たり、妖妖（ようよう）如たり。
5. 子曰わく、甚だしいかな、吾が衰えたるや。久し、吾れ復（ま）た夢に周公を見ず。
6. 子曰わく、道に志し、徳に拠（よ）り、仁に依（よ）り、藝に遊ぶ。
7. 子曰わく、束脩（そくしゅう）を行なうより以上は、吾れ未だ嘗（かつ）て誨（おし）うる事無くんばあらず。
8. 子曰わく、憤（ふん）せずんば啓（けい）せず。悱（ひ）せずんば発せず。一隅（いちぐう）を挙げてこれに示し、三隅を以て反（か）えらざれば、則ち復（ま）たせざるなり。
9. 子、喪（も）ある者の側（かたわ）らに食すれば、未だ嘗て飽かざるなり。子、是の日に於いて哭（こ）くすれば、則ち歌わず。
10. 子、顔淵（がんえん）に謂いて曰わく、これを用うれば則ち行い、これを舍（す）つれば則ち蔵（かく）る。唯だ我れと爾（なんじ）と是れあるかな。子路が曰わく、子、三軍を行なわば、則ち誰（たれ）と与（とも）にせん。子曰わく、暴虎馮河（ぼうこひょうが）して死して悔いなき者は、吾れ与にせざるなり。必ずや事に臨みて懼（おそ）れ、謀（ぼう）を好みてなさん者なり。
11. 子曰わく、富にして求むべくんば、執鞭（しつべん）の士と雖（いえど）も、吾れ亦これを為（な）さん。如（も）し求むべからずんば、吾が好む所に従わん。
12. 子の慎（つつ）しむ所は、齊、戦、疾。
13. 子、齊（せい）に在（いま）して韶（しょう）を聞く。三月、肉の味を知らず。曰わく、囟（はか）らざりき、樂を為すことの斯（ここ）に至らんとは。
14. 冉有（ぜんゆう）が曰わく、夫子（ふうし）は衛（えい）の君を為（たす）けんか。子貢（しこう）が曰わく、諾（だく）、吾れ将（まさ）にこれを問わんとす。入りて曰わく、伯夷（はくい）・叔齊（しゅくせい）は何人（なんびと）ぞや。曰わく、古えの賢人なり。曰わく、怨（うら）みたるか。曰わく、仁を求めて仁を得たり。又た何ぞ怨みん。出でて曰わく、夫子は為（たす）けし。
15. 子曰わく、疏食（そし）を飯（くら）い水を飲み、肱（ひじ）を曲げてこれを枕とす。楽しみ亦た其の中に在り。不義にして富み且つ貴きは、我れに於いて浮雲（ふうん）の如し。
16. 子曰わく、我れに数年を加え、五十にして以て易を学べば、大なる過ち無かるべし。
17. 子の雅言（がげん）する所は、詩、書、執礼（しつれい）、皆雅言す。
18. 葉公（ようこう）、孔子を子路に問う。子路対（こた）えず。子曰わく、女（なんじ）奚（な）んぞ曰ざる、其の人と為りや、憤（いきどお）りを発して食を忘れ、楽しみて以て憂いを忘れ、老いの将（まさ）に至らんとするを知らざるのみと。
19. 子曰わく、我れは生まれながらにしてこれを知る者に非（あら）ず。古えを好み、敏にして以てこれを求めたる者なり。
20. 子、怪力乱神を語らず。
21. 子曰わく、我れ三人行えば必ず我が師を得（う）。其の善き者を択（えら）びてこれに従う。其の善からざる者にしてこれを改（あらた）む。
22. 子曰わく、天、徳を予（わ）れに生（な）せり。桓魋（かんたい）其れ予れを如何。

23. 子曰わく、二三子（にさんし）、我れを以て隠せりと為すか。吾れは爾（なんじ）に隠すこと無し。吾れ行なうとして二三子と与（とも）にせざる者なし。是れ丘（きゅう）なり。
24. 子、四つを以て教う。文、行、忠、信。
25. 子曰わく、聖人は吾れ得てこれを見ず。君子者（しゃ）を見るを得ば、斯れ可なり。子曰わく、善人（ぜんじん）は吾れ得てこれを見ず。恒（つね）ある者を見るを得ば、斯れ可なり。亡くして有りと為し、虚しくして盈（み）てりと為し、約にして泰（ゆた）かなりと為す。難（かた）いかな、恒あること。
26. 子、釣りして網（こう）せず。弋（よく）して宿（しゆく）を射（い）ず。
27. 子曰わく、蓋（けだ）し知らずしてこれを作る者あらん。我れは是れ無きなり。多く聞きて其の善き者を択びてこれに従い、多く見てこれを識（しる）すは、知るの次ぎなり。
28. 互郷（ごきょう）、与（とも）に言い難し。童子見（まみ）ゆ。門人惑う。子曰わく、其の進むに与（くみ）するなり。其の退くに与せざるなり。唯だ何ぞ甚だしき。人、己れを潔（いさぎよ）くして以て進まば、其の潔きに与せん。其の往を保せざるなり。
29. 子曰わく、仁遠からんや、我れ仁を欲すれば、斯に仁至る。
30. 陳の司敗（しはい）問う。昭公（しょうこう）は礼を知れるか。孔子対えて曰わく、礼を知れり。孔子退く。巫馬期（ふばき）を揖（ゆう）してこれを進めて曰わく、吾れ聞く、君子は党（とう）せずと。君子も亦た党するか。君、呉に取（めと）れり。同姓なるが為にこれを呉孟子謂う。君にして礼を知らば、孰（たれ）か礼を知らざらん。巫馬期、以て告（もう）す。子曰わく、丘（きゅう）や幸いなり、苟（いやしく）も過ちあれば、人必らずこれを知る。
31. 子、人と歌いて善ければ、必らずこれを反（か）えさしめて、而（しか）して、後にこれに和す。
32. 子曰わく、文は吾れ猶（な）お人のごとくなること莫（な）からんや。躬（み）、君子を行なうことは、則ち吾れ未だこれを得ること有らざるなり。
33. 子曰わく、聖と仁との若（ごと）きは、則ち吾れ豈（あ）に敢（あ）えてせんや。抑（そもそも）これを為して厭（いと）わず、人を誨（おし）えて倦（う）まずとは、則ち謂うべきのみ。公西華（こうせい）が曰わく、正（まさ）に唯だ弟子学ぶこと能わざるなり。
34. 子の疾（やまい）、病（へい）なり。子路、禱（いの）らんと謂う。子曰わく、諸（こ）れ有りや。子路が対（こた）えて曰わく、これ有り。誅（るい）に曰わく、爾（なんじ）を上下の神祇（しんぎ）に禱（まつ）ると。子曰わく、丘（きゅう）の禱ること久し。
35. 子曰わく、奢（おご）れば、則ち不孫（ふそん）、儉（けん）なれば則ち固（こ）なり。其の不孫ならんより寧（むし）ろ、固なれ。
36. 子曰わく、君子は坦（たいら）かに蕩蕩（とうとう）たり。小人は長（とこしな）えに戚戚（せきせき）たり。
37. 子は温にして厲（はげ）し。威（い）にして猛（もう）ならず。恭恭（うやうや）しくして安し。

泰伯（たいはく）第八

1. 子曰わく、大泊（たいはく）は其れ至徳（しとく）と謂うべきのみ。三たび天下を以て譲る。民得て称すること無し。
2. 子曰わく、恭にして礼なければ則ち勞す。慎（しん）にして礼なければ則ち憊（し）す。勇にして礼なければ則ち乱る。直にして礼なければ則ち絞（こう）す。君子、親（しん）に篤（あつ）ければ則ち民仁に興（おこ）る。故（こ）旧（きゅう）遺（わす）れざれば、則ち民偷（うす）からず。
3. 曾子（そうし）、疾（やまい）あり。門弟子（もんていし）を召（よ）びて曰わく、予（わ）が足を啓（ひら）け、予が手を啓け。詩に云う、戰戰兢兢（せんせんきょうきょう）として、深淵に臨むが如く、薄氷（はくひょう）を履（ふ）むが如しと。而今（いま）よりして後（のち）、吾れ免（まぬ）がることを知るかな、小子。
4. 曾子、疾あり。孟敬子これを問う。曾子言いて曰わく、鳥の將（まさ）に死なんとするや、其の鳴くこと哀（かな）し。人の將に死なんとするや、其の言うこと善し。君子の道に貴ぶ所の者は三つ。容貌（ようぼう）を動かしては斯に暴慢（ぼうまん）を遠ざく。顔色を正しては斯に信に近づく。辞氣を出しては斯に鄙培（ひばい）を遠ざく。籩豆（へんとう）の事は則ち有司（ゆうし）存せり。
5. 曾子曰わく、能（のう）を以て不能（ふのう）に問い、多きを以て寡（すく）なきに問い、有れども無きが若（ごと）く、犯されて校（おく）いず。昔者（むかし）、吾が友、嘗（かつ）て斯（ここ）に従事せり。
6. 曾子曰わく、以て六尺の孤（こ）を託（たく）すべく、以て百里の命（めい）を寄すべく、大節に臨（のぞ）んで奪うべからず。君子人（くんしじん）か、君子人なり。
7. 曾子曰わく、士は以て弘毅（こうき）ならざるべからず。任重くして道遠し。仁以て己が任と為す、亦た重からずや。死して後已（や）む、亦た遠からずや。
8. 子曰わく、詩に興（お）こり、礼に立ち、樂（がく）に成る。
9. 子曰わく、民はこれに由らしむべし。これを知らしむべからず。
10. 子曰わく、勇を好みて貧しきを疾（にく）むは、乱なり。人にして不仁なる、これを疾むこと己甚（はなは）だしきは、乱なり。
11. 子曰わく、如（も）し周公の才の美ありとも、驕（おご）り且つ吝（やぶさ）かならしめば、其の余は觀るに足らざるのみ。
12. 子曰わく、三年学びて穀（こく）に至らざるは、得やすからざるのみ。
13. 子曰わく、篤（あつ）く信じて学問を好み、死を守りて道を善くす。危邦（きほう）には入らず、乱邦には居（い）らず。天下道あれば則ち見（あらわ）れ、道なければ則ち隱（かくる）る。邦に道あるに、貧しくして且つ賤（いや）しきは恥なり。邦に道なきに、富て且つ貴（たつ）きは恥なり。
14. 子曰わく、其の位に在らざれば、其の政（まつりごと）を謀（はか）らず。
15. 子曰わく、師摯（しし）の始め、閔睢（かんしよ）の乱（おわ）りは、洋洋乎（ようようこ）として耳に盈（み）てるかな。
16. 子曰わく、狂（きょう）にして直（ちよく）ならず、侗（とう）にして愿（げん）ならず、恇恇（こうこう）にして信ならず。吾れはこれを知らず。
17. 子曰わく、学は及ばざるが如くするも、猶（な）おこれを失わんことを恐る。
18. 子曰わく、巍巍（ぎぎ）たるかな、舜（しゅん）・禹（う）の天下を有（たも）てるや。而（しか）して与（あずか）らず。
19. 子曰わく、大なるかな、堯（ぎょう）の君たるや。巍巍として唯（た）だ天を大なりと為す。唯だ堯これに則（のつ）る。蕩蕩（とうとう）として民能く名づくること無し。巍巍として其れ成功あり。煥（かん）として其れ文章あり。
20. 舜（しゅん）、臣五人ありて、天下治まる。武王の曰わく、予れに乱十人あり。孔子曰わく、才難（さいかた）しと、其れ然（しか）らずや。唐虞（とうぐ）の際（さい）、斯に於いて盛（さか）んと為（な）す。婦人あり。九人のみ。「文王、西伯（せい）は」と為りて」天下を三分して其の二を有（たも）ち、以て殷（いん）に服事（ふくじ）す。周の徳は、其れ至徳（しとく）と謂うべきのみ。

21. 子曰わく、禹（う）は吾れ間然（かんぜん）すること無し。飲食を菲（うす）くして考を鬼神に致し、衣服を悪（あ）しくして美を黻冕（ふつべん）に致し、宮室（ぐうしつ）を卑（ひく）くして力を溝洫（こうきょく）に尽くす。禹は吾れ間然すること無し。



論語卷第五

子罕（しかん）第九

1. 子、罕（まれ）に利を言う。命（めい）と仁と。
2. 達巷党（たつこうとう）の人曰わく、大（だい）なるかな孔子、博く学びて名を成す所なし。子これを聞き、門弟子（もんていし）に謂いて曰わく、吾れは何かを執（と）らん。御（ぎよ）を執らんか、射（しゃ）を執らんか。吾れ御を執らん。
3. 子曰わく、麻冕（まべん）は礼なり。今や純（いと）なるは儉（けん）なり。吾れは衆（しゅう）に従わん。下（しも）に拝するは礼なり。今上（かみ）にはいすは泰（たい）なり。衆に違（たが）うと雖も、吾れは下に従わん。
4. 子、四を絶つ。意なく、必（ひつ）なく、固（こ）なく、我（が）なし。
5. 子、匡（きょう）に畏（おそ）る。曰わく、文王既に没したれども、文茲（ここ）に在らずや。天の將に斯の文を喪（ほろ）ぼさんとするや、後死（こうし）の者、斯の文に与（あず）かることを得ざるなり。天の未だ斯の文を喪ぼさざるや、匡人（きょうひと）其れ予（わ）れを如何。
6. 太宰（たいさい）、子貢に問いて曰わく、夫子（ふうし）は聖者か。何ぞ其れ多能（たのう）なる。子貢が曰わく、固（もと）より天縱（てんしょう）の將聖（しょうせい）にして、又た多能なり。子これを聞きて曰わく、太宰、我れを知れる者か。吾れ少（わか）くして賤（いや）し。故に鄙事（ひじ）に多能なり。君子、多ならんや。多ならざるなり。
7. 罕（ろう）が曰わく、子云（のた）まう、吾れ試（もち）いられず、故に藝（げい）あり。
8. 子曰わく、吾れ知ることを有らんや。知ること無きなり。鄙夫（ひふ）あり、来たつて我れに問う、空空（こうこう）如たり。我れ其の両端を叩（たた）いて竭（つ）くす。
9. 子曰わく、鳳鳥（ほうちょう）至らず、河（か）、凶（と）を出（い）ださず。吾れ已（や）んぬるかな。
10. 子、齊衰（しさい）の者と冕衣（べんい）裳（しょう）の者とを見れば、これを見ては少（わか）しと雖ども必ずや作（た）ち、これを過（す）くれば必ず趨（はし）る。
11. 顔淵（がんえん）、喟然（きぜん）として歎（たん）じて曰わく、これを仰げば弥（いよいよ）高く、これを鑽（き）れば、弥弥堅し。これを瞻（み）るに前に在れば、忽焉（こつえん）として後（しりえ）に在り。夫子、循循然（じゅんじゅんぜん）として善く人を誘（いざな）う。我れを欲するも能（あた）わず。既に吾が才を竭（つ）くす。立つ所ありて卓爾（たくじ）たるが如し。これに従わんと欲すとも雖も、由（よし）なきのみ。
12. 子の疾（やまい）、病（へい）なり。子路、門人をして巨たらしむ。病、間（かん）なるときに、曰わく、久しいかな、由（ゆう）の詐（いつわ）りを行うや。巨なくして巨ありと為す。吾れ誰をか欺（あざむ）かん。天を欺かんか。且（か）つ予（われ）其の巨の手に死なんよりは、無寧（むしろ）二三子の手に死なんか。且つ予れ縦（たと）い大葬（たいそう）を得ずとも、予れ道路に死なんや。
13. 子貢が曰わく、斯（ここ）に美玉あり、匱（ひつ）に韞（おさ）めて諸（こ）れを蔵せんか、善賈（ぜんこ）を求めて諸れを沽（う）らんか。子曰わく、諸れを沽らんかな、諸れを沽らんかな。我れ賈（こ）を待つ者なり。
14. 子、九夷（い）に居らんと欲す。或るひとの曰わく、陋（いや）しきことこれを如何せん。子曰わく、君子これに居らば、何の陋しきことかこれ有らん。
15. 子曰わく、吾れ衛（えい）より魯（ろ）に反（かえ）り、然る後に樂（がく）正しく、雅頌（がしょう）各々其の所を得たり。
16. 子曰わく、出でては則ち公卿（こうけい）に事え、入ては則ち父兄に事う。喪の事は敢（あ）えて勉（つと）めずんばあらず。酒の困（みだ）れを為さず、何か我れに有らんや。
17. 子、川の上（ほとり）に在りて曰わく、逝（ゆ）く者は斯（か）くの如きか。昼夜を舍（や）めず。

18. 子曰わく、吾れ未だ徳を好むこと色を好むが如くする者を見ざるなり。
19. 子曰わく、譬（たと）えば山を為（つく）るが如し。未だ一簣（いっき）を成さざるも、止むは吾が止むなり。譬えば地を平らかにするが如し。一簣を覆（ふく）すと雖ども、進むは吾が往くなり。
20. 子曰わく、これに語（つげ）て惰（おこた）らざる者は、其れ回なるか。
21. 子、顔淵を謂（い）いて曰わく、惜（お）しいかな。吾れ其の進むを見るも、未だ其の止（や）むを見ざるなり。
22. 子曰わく、苗（なえ）にして秀でざる者あり。秀でて実らざる者あり。
23. 子曰わく、後生畏（こうせいおそ）るべし。焉（いづく）んぞ来者の今に如かざるを知らんや。四五十にして聞こゆること無くんば、斯（こ）れ亦た畏るるに足らざるのみ。
24. 子曰わく、法語（ほうご）の言は、能く従うこと無からんや。これを改むるを貴しと為す。巽与（そんよ）の言は、能く説（よろこ）ぶこと無からんや。これを繹（たず）ねるを貴しと為す。説びて繹ねず、従いて改めずんば、吾れこれを如何ともする末（な）きのみ。
25. 子曰わく、忠信を主とし、己に如かざる者を友とすること無かれ。過（あやまち）てば則ち改むるに憚（はばか）ること勿（な）かれ。
26. 子曰わく、三軍も帥（すい）を奪うべきなり。匹夫（ひっふ）も志しを奪うべからざるなり。
27. 子曰わく、敝（やぶ）れたる縕袍（うんぼう）を衣（き）、狐貉（こかく）を衣たる者と立ちて恥じざる者は、其れ由（ゆう）なるか。
28. 伎（そこな）わず求めず、何を用（もつ）てか臧（よ）からざらん。子路、終身これを誦（しょう）す。子曰わく、是の道や、何ぞ以て臧（よ）しとするに足らん。
29. 子曰わく、歳（とし）寒くして、然る後に松柏（しょうはく）の彫（しば）むに後（おく）るることを知る。
30. 子曰わく、知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼（おそれ）ず。
31. 子曰わく、与（とも）に共に学ぶべし、未だ与に道に適（ゆ）くべからず。与に道に適くべし、未だ与に立つべからず。与に立つべし、未だ与に権（はか）るべからず。
32. 唐棣（とうてい）の華（はな）、偏（へん）として其れ反（かえ）せり。豈（あ）に爾（なんじ）を思わざらんや、室是れ遠ければなり。子曰わく、未だこれを思わざるなり。夫（そ）れ何の遠きことかこれ有らん。

郷黨（きょうとう）第十

1. 孔子、郷黨（きょうとう）に於いて恂恂（じゅんじゅん）如たり。言うこと能わざる者に似たり。其の宗廟（そうびょう）朝廷に在（いま）すや、便便（べんべん）として言い、唯だ謹（つつ）しめり。

2. 朝（ちょう）にして下大夫（かだいふ）と言え、侃侃（かんかん）如たり。上大夫と言え、闐闐（ぎんぎん）如たり。君在（いま）せば蹶跡（しゅくせき）如たり、与（よ）如たり。

3. 君、召して擯（ひん）たらしむれば、色勃（ぼつ）如たり。足躩（かく）如たり。与（とも）に立つ所を揖（ゆう）すれば、其の手を左右にす。衣（い）の前後、檐（せん）如たり。趨（はし）り進むには翼（よく）如たり。賓（ひん）退けば必ず復命して曰わく、賓顧（かえり）みずと。

4. 公門に入るに、鞠（きく）躬（きゆう）如たり。容（い）られざるが如くす。立つに門に中せず。行くに闔（しきい）を履まず。位を過ぐれば、色勃（ぼつ）如たり、足躩（かく）如たり。其の言うこと、足らざる者に似たり。斉（し）を撰（かか）げて堂に昇るに、鞠躬（きくきゆう）如たり。気を屏（おさ）めて息せざる者に似たり。出でて一等を降れば、顔色を逞（はな）って怡怡（いい）如たり。階を没（つく）せば、趨（はし）り進むこと翼（よく）如たり。其の位に復（かえ）れば、蹶（しゅく）跡（せき）如たり。

5. 圭（けい）を執（と）れば、鞠躬（きくきゆう）如たり。勝（た）えざるが如し。上ぐることは揖（ゆう）するが如く、下すことは授うくるが如く、勃（ぼつ）如として戦色（せんしよく）。足は蹶蹶（しゅくしゅく）如として循（したが）うこと有り。享礼（きょうらい）には容色（ようしよく）あり。私覲（してき）には愉愉（ゆゆ）如たり。

6. 君子は紺緌（かんしゅう）を以て飾らず。紅紫（こうし）は以て褻服（せつぷく）と為さず。暑に当たりては纁（ひとえ）の絺綌（ちげき）、必ず表（ひょう）して出（い）ず。緇衣（しい）には羔裘（こうきゆう）、素衣（そい）には麤裘（げいきゆう）。黄衣（きい）には狐裘（こきゆう）。褻裘（げいきゆう）は長く、右の袂（たもと）を短くす。必ず寝衣（しんい）あり、長（た）け一身有半。

狐貉（こかく）の厚き以て居る。喪（も）を去（のぞ）いては佩（お）びざる所なし。帷裳（いしょう）に非ざれば必ずこれを殺（さい）す。羔裘玄冠（こうきゆうげんかん）しては以て弔（ちょう）せず。吉月には必ず朝服（ちょうふく）して朝（ちょう）す。

7. 齊（ものいみ）すれば必ず明衣（めい）あり、布（ぬの）なり。齊すれば必ず食を変じ、居（きよ）は必ず坐を遷（うつ）す。

8. 食（いい）は精（しらげ）を厭（いと）わず、膾（なます）は細きを厭わず。食（いい）の饘（い）して餲（あい）せると魚の餒（あさ）れて肉の敗（やぶ）れたるは食わず。色の悪しきは食らわず。臭いの悪しきは食らわず。飪（じん）を失えるは食らわず。時ならざるは食らわず。割（きりめ）正しからざれば食らわず。其の醬（しょう）をえざれば食らわず。肉は多しと雖も、食（し）の氣に勝たしめず。唯だ酒は量なく、乱に及ばず。沽（か）う酒と市（か）う脯（ほしじ）は食らわず。

薑（はじかみ）を徹（す）てずして食らう、多くは食らわず。公に祭れば肉を宿（よべ）にせず。祭りの肉は三日を出（い）ださず。三日を出ずればこれを食らわず。食らうには語らず、寝（い）ぬるには言わず。疏（そ）食（し）と菜羹（さいこう）と瓜（うり）と雖も、祭れば必ず齊如（さいじょ）たり。

9. 席正しからざれば、坐せず。

10. 郷人（きょうじん）の飲酒には、杖（じょう）者出ずれば、斯に出ず。郷人の讎（おにやらい）には、朝服して阼階（そかい）に立つ。

11. 人を他邦（たほう）に問えば、再拜してこれを送る。

12. 康子（こうし）、菓を饋（おく）る。拜してこれを受く、曰わく、丘（きゆう）未だ達せず、敢えて嘗（な）めず。

13. 厩（うまや）焼けたり、子、朝（ちょう）より退（し）きて曰わく、人を傷（そこな）えりや。馬を問わず。
14. 君、食（しょく）を賜えば、必らず席を正して先ずこれを嘗む。君、腥（なまぐさ）きを賜えば、必らず熟してこれを薦（すす）む。君、生けるを賜えば、必らずこれを畜（か）う。
15. 君に侍（じ）食（しょく）するに、君祭れば先ず飯（はん）す。
16. 疾（しつ）あるに、君これを視れば、東首（とうしゅ）して朝服を加え、紳（しん）を拖（ひ）く。
17. 君、命じて召せば、駕（が）が俟（ま）たずして行く。
18. 大廟（たいびょう）に入りて、事ごとに問う。
19. 朋友死して帰（き）する所なし。曰わく、我れに於いて殯（ひん）せよ。朋友の饋（おく）りものは、車馬と雖も、祭りの肉に非ざれば、拝せず。
20. 寝（い）ぬるに尸（し）せず。居るに容（かたち）づくらず。
21. 子、齊衰（しさい）の者を見ては、狎（な）れたりと雖も必らず変ず。冕者（べんしゃ）と瞽者（こしゃ）とを見ては、褻（せつ）と雖ども必らず貌（かたち）を以てす。凶服の者にはこれに式（しょく）す。負版（ふばん）の者に式す。盛饌（せいせん）あれば必らず色を変じて作（た）つ。迅雷（じんらい）風裂（ふうれつ）には必らず変ず。
22. 車に昇りては、必らず正しく立ちて綏（すい）と執（と）る。車の中にして内顧（ないこ）せず、疾言（しつげん）せず。親指せず。
23. 色みて斯に挙（あが）り。翔（かけ）りて而（しか）して後に集（とど）まる。曰わく、山梁（さんりょう）の雌雉（しち）、時なるかな、時なるかな。子路これを共（きょう）す。三たび嗅（か）ぎて作（た）つ。

論語卷第六

先進（せんしん）第十一

1. 子曰わく、先進（せんしん）の礼楽に於けるや、野人（やじん）なり。後進（こうしん）の礼楽に於けるや、君子なり。如（も）しこれを用（もち）うれば、則（すなわ）ち吾れは先進に従わん。
2. 子曰わく、我れに陳（ちん）・蔡（さい）に従う者は、皆な門に及ばざるなり。
3. 德行（とくこう）には顔淵（がんえん）・閔子騫（びんしけん）・冉伯牛（ぜんはくぎゅう）・仲弓（ちゅうや）、言語には宰我（さいが）・子貢（しこう）、政事には冉有（ぜんゆう）・季路（きろ）、文学には子游（しゆう）・子夏（しか）。
4. 子曰わく、回や、我れを助くる者に非ざるなり。吾が言に於いて説（よろこ）ばざる所なし。
5. 子曰わく、孝なるかな、閔子騫（びんしけん）。人、其の父母昆弟（こんてい）を問（かん）するの言（こと）あらず。
6. 南容（なんよう）、白圭（はくけい）を三復（さんぷく）す。孔子、其の兄の子を以てこれに妻（めあ）わす。
7. 季康子（きこうし）問う、弟子（ていし）孰（たれ）か学を好むと為す。孔子対（こた）えて曰わく、顔回なる者あり、学を好む。不幸、短命にして死せり。今や則ち亡し。
8. 顔淵死す。顔路（がんろ）、子の車以てこれが椁（かく）を為（つく）らんことを謂う。子曰わく、才も不才も、亦た各々其の子（こ）と言うなり。鯉（り）や死す、棺（かん）ありて椁（かく）なし。吾れ徒行（とこう）して以てこれが椁を為（つく）らず。吾が大夫の後（しりえ）に従えるを以て、徒行すべからず。
9. 顔淵（がんえん）死す。子曰わく、噫（ああ）、天予れを喪（ほろ）ぼせり、天予れを喪ぼせり。
10. 顔淵死す。子これを哭（こく）して慟（どう）す。従者の曰わく、子慟せり。曰わく、慟すること有るか。夫（か）の人の為に慟するに非ずして、誰が為にかせん。
11. 顔淵（がんえん）死す。門人厚くこれを葬（ほうむ）らんと欲す。子曰わく、不可なり。門人厚くこれを葬る。子曰わく、回や、予れを視ること猶（な）を父のごとし。予れは視ること猶お子のごとくすることを得ず。我に非ざるなり、夫（か）の二三子なり。
12. 季路、鬼神に事（つか）えんことを問う。子曰わく、未だ人に事うること能（あた）わず、焉（いづく）んぞ能く鬼（き）に事えん。曰わく、敢えて死を問う。曰わく、未だ生を知らず、焉んぞ死を知らん。
13. 閔子騫（びんしけん）、側（かたわ）らに侍（じ）す、閭閻（ぎんぎん）如たり。子路、行行（こうこう）如たり。冉子（ぜんし）・子貢、侃侃（かんかん）如たり。子樂しむ。曰わく、由（ゆう）がごときは其の死を得ざらん。
14. 魯人（ろひと）、長府（ちょうふ）を為（つく）る。閔子騫（びんしけん）が曰わく、旧貫に仍（よ）らば、これを如何、何ぞ必らずしも改め作らん。子曰わく、夫（か）の人は言わず。言えば必らず中（あた）ること有り。
15. 子曰わく、由（ゆう）の瑟（しつ）、奚為（なんす）れぞ丘（きゅう）の門に於いてせん。門人、子路を敬せず。子曰わく、由（ゆう）や堂（どう）に昇れり。未だ室に入らざるなり。
16. 子貢問う、師と商とは、孰（いず）れか、賢（まさ）れる。子曰わく、師や過ぎたり、商や及ばず。曰わく、然らば則ち師は愈（まさ）れるか。子曰わく、過ぎたるは猶（な）お及ばざるがごとし。
17. 季氏、周公より富めり。而（しか）して求（きゅう）やこれが為に聚斂（しゅうれん）してこれを附益（ふえき）す。子曰わく、吾が徒（と）に非ざるなり。小子（しょうし）、鼓（こ）を鳴らしてこれを攻めて可なり。
18. 柴（さい）や愚（ぐ）、參（しん）や魯（ろ）、師（し）や辟（へき）、由（ゆう）や嗇（がん）。

19. 子曰わく、回や其れ庶（ちか）きか、屢々（しばしば）空（むな）し。賜（し）は命（めい）を受けずして貨殖（かしよく）す。億（おもんばか）れば則ち屢々中（あた）る。

20. 子張、善人（ぜんじん）の道を問う。子曰わく、迹（あと）を踐（ふ）まず、亦た室に入らず。

21. 子曰わく、論（ろん）の篤（あつ）きには是れ与（くみ）すれば、君子者か、色莊者（しきそうしゃ）か。

22. 子路問う、聞くままに斯（こ）れ行なわんや。子曰わく、父兄の在（いま）すこと有り、これを如何ぞ、其れ聞くままに斯れを行なわんや。冉有（ぜんゆう）問う、聞くままに斯れ行なわんや。子曰わく、聞くままに斯れ行なえ。公西華（こうせい）が曰く、由（ゆう）や問う、聞くままに斯れ行なわんやと。子曰わく、父兄の在すこと有り。求（きゅう）や問う、聞くままに斯れ行なわんやと。子曰わく、聞くままに斯れ行なえと。赤（せき）や惑（まど）う。敢（あ）えて問う。子曰わく、求や退（しりぞ）く、故にこれを進む。由や人を兼ね、故にこれを退く。

23. 子、匡（きょう）に畏（おそ）る。顔淵後（おく）れたり。子曰わく、吾れ女（なんじ）を以て死せりと為（な）す。曰わく、子在（いま）す、回何ぞ敢えて死せん。

24. 季子然（きしぜん）問う、仲由（ちゅうゆう）・冉求（ぜんきゅう）は大臣（だいしん）と謂うべきか。子曰わく、吾れ子を以て異（こと）なるをこれ問うと為（な）す、曾（すなわ）ち由と求とをこれ問う。所謂（いわゆる）大臣なる者は、道を以て君に事（つか）え、不可なれば則ち止（や）む。今、由と求とは具臣（ぐしん）と謂うべし。曰く、然らば則ちこれに従わん者か。子曰わく、父と君とを弑（しい）せんには、亦た従わざるなり。

25. 子路、子羔（しこう）をして費（ひ）の宰（さい）たらしむ。子曰わく、夫（か）の人の子（こ）を賊（そこな）わん。子路が曰わく、民人あり、社稷（しゃしよく）あり、何ぞ必らずしも書を読みて然（しか）る後に学と為さん。子曰わく、是（こ）の故に夫（か）の佞者（ねいじゃ）を悪（にく）む。

26. 子路・曾皙（そうせき）・冉有（ぜんゆう）・公西華（こうせい）、侍坐（じざ）す。子曰わく、吾が一日も爾（なんじ）より長じたるを以て、吾れを以てすること無かれ。居れば則ち曰わく、吾れを知らずと。如（も）し爾を知るもの或らば、則ち何を以てせんや。子路率爾（そつじ）として対（こた）えて曰く、千乗の国、大国の間に撰（せつ）して、これに加うるに、師旅（しりょ）を以てし、これに因（よ）るに飢饉（ききん）を以てせん、由（ゆう）やこれを為（おさ）め、三年に及び比（ころ）に、勇ありて且（か）つ方（ほう）を知らしむべきなり。

夫子（ふうし）これを哂（わら）う。求（きゅう）よ爾は如何。対（こた）えて曰く、方の六七十、如（も）しくは五六十、求やこれを為（おさ）め、三年に及び比（ころ）に、民を足（た）らしむべきなり。其の礼楽の如きは、以て君子に俟（ま）たん。赤（せき）よ爾は如何。対えて曰く、これを能くすと曰うには非ず。願わくは学ばん。宗廟（そうびょう）の事、如（も）しくは会同に、端章甫（たんしょうほ）して願わくは小相（しょうしょう）たらん。

点（てん）よ爾は如何。瑟（しつ）を鼓（ひ）くこと希（や）み、鏗爾（こうじ）として瑟を舍（お）きて作（た）ち、対えて曰く、三子者（さんししゃ）の撰（せん）に異なり。子曰わく、何ぞ傷（いた）まんや、亦た各々其の志しを言うなり。曰わく、慕春（ぼしゅん）には春服既（すで）に成り、冠者（かんじゃ）五六人・童子（どうじ）六七人を得て、沂（き）に浴し、舞雩（ぶう）に風（ふう）して、詠じて帰らん。夫子喟然（きぜん）として歎（きん）じて曰わく、吾れは点に与（くみ）せん。

三子者出（い）ず。曾皙（そうせき）後（おく）れたり。曾皙が曰わく、夫（か）の三子者の言は如何。子曰わく、亦た各々其の志しを言うのみ。曰わく、夫子、何ぞ由を晒うや。曰わく、国を為（おさ）むるには礼を以てす。其の言讓（ゆず）らず。是の故にこれを晒らう。求と唯（いえ）ども則ち邦に非ずや、安（いづく）んぞ方六七十如（も）しくは五六十にして邦に非ざる者を見ん。赤と唯（いえ）ども則ち邦に非ずや、宗廟・会同は諸侯に非ずしてこれを如何。赤やこれが小相（しょうしょう）たらば、孰（たれ）か能くこれが大相たらん。

顔淵（がんえん）第十二

1. 顔淵（がんえん）、仁を問う。子曰わく、己れを克（せ）めて礼に復（かえ）るを仁と為（な）す。一日己れを克めて礼に復れば、天下仁に帰（き）す。仁を為すこと己れに由（よ）る。而（しか）して人に由らんや。顔淵の曰わく、請（こ）う、其の目（もく）を問わん。子曰わく、礼に非ざれば視ること勿（な）かれ、礼に非ざれば聴くこと勿かれ、礼に非ざれば言うこと勿かれ、礼に非ざれば動くこと勿かれ。顔淵の曰わく、回（かい）、不敏（ふびん）なりと雖（いえど）も、請う、其の語を事とせん。
2. 仲弓（ちゅうきゅう）、仁を問う。子曰わく、門を出（い）でては大賓（だいひん）を見るが如くし、民を使うには大祭に承（つか）えまつるが如くす。己れの欲せざる所は人に施すこと勿（な）かれ。邦に在りても怨み無く、家に在りても怨み無し。仲弓が曰わく、雍（よう）、不敏なりと雖ども、請（こ）う、斯の語を事とせん。
3. 司馬牛（しばぎゅう）、仁を問う。子曰わく、仁者は其の言や訥（じん）。曰わく、其の言や訥、斯れこれを仁と謂うべきか。子曰わく、これを為すこと難（かた）し。これを言うに訥なること無きを得んや。
4. 司馬牛、君子を問う。子曰わく、君子は憂えず、懼（おそ）れず。曰わく、憂えず、懼れず、斯れこれを君子と謂うべきか。子曰わく、内に省（かえり）みて疚（やま）しからずんば、夫（そ）れ何をか憂え何をか懼れん。
5. 司馬牛、憂えて曰わく、人皆な兄弟（けいてい）あり、我れ独り亡し。子夏（しか）が曰わく、商（しょう）これを聞く、死生 命あり、富貴 天に在り。君子は敬して失なく、人と恭恭（うやうや）しくして礼あらば、四海の内は皆な兄弟たり。君子何ぞ兄弟なきを患（うれ）えんや。
6. 子張、明（めい）を問う。子曰わく、浸潤（しんじゅん）の譖（そしり）、膚受（ふじゅ）の愬（うったえ）、行なわれざる、明と謂うべきのみ。浸潤の譖、膚受の愬、行なわれざる、遠しと謂うべきのみ。
7. 子貢（しこう）、政を問う。子曰わく、食を足（た）し兵を足し、民をしてこれを信ぜしむ。子貢曰く、必らず已（や）むを得ずして去らば、斯の三者に於いて何（いず）れをか先にせん。曰わく、兵を去らん。曰わく、必らず已むを得ずして去らば、斯の二者に於いて何れをか先にせん。曰わく、食を去らん。古（いにし）えより皆死あり、民は信なくんば立たず。
8. 棘（きよく）子成（しせい）が曰わく、君子は質のみ。何ぞ文を以て為さん。子貢曰く、惜（お）しいかな、夫（か）の子（し）の君子を説くや。駟（し）も舌に及ばず。文は猶（な）お質のごときなり、質は猶お文のごときなり。虎豹（こひょう）の鞞（かく）は猶お犬羊の鞞のごときなり。
9. 哀公、有若（ゆうじゃく）に問いて曰わく、年饑（う）えて用足らず、これを如何。有若対（こた）えて曰わく、盍（な）んぞ徹せざるや。曰わく、二にして吾れ猶お足らず。これを如何ぞ其れ徹せんや。対えて曰わく、百姓（ひやくせい）足らば、君孰（たれ）と与（とも）にか足らざらん。百姓足らずんば、君孰と与にか足らん。
10. 子張、徳を崇（たか）くし惑（まど）いを弁ぜんことを問う。子曰わく、忠信を主として義に従（うつ）るは、徳を崇くするなり。これを愛しては其の生を欲し、これを悪（にく）みては其の死を欲す。既に其の生を欲して、又た其の死を欲するは、是れ惑いなり。
11. 齊（せい）の景公、政（せい）を孔子に問う。孔子対（こた）えて曰わく、君 君たり、臣 臣たり、父 父たり、子 子たり。公の曰わく、善いかな。信（まこと）に如（も）し君 君たらず、臣 臣たらず、父 父たらず、子 子たらずんば、粟（ぞく）ありと雖も、吾れ豈（あ）に得て諸（こ）れを食らわん。
12. 子曰わく、片言（へんげん）以て獄（うった）えを折（さだ）むべき者は、其れ由（ゆう）なるか。子路、諾（だく）を宿（とど）むること無し。
13. 子曰わく、訟（うった）えを聴くは、吾れ猶お人のごときなり。必らずや訟え無からしめんか。
14. 子張、政を問う。子曰わく、これに居りては倦（う）むこと無く、これを行うには忠を以てす。



15. 子曰わく、博く文を学びて、これを約するに礼を以てせば、亦た以て畔（そむ）かざるべきか。

16. 子曰わく、君子は人の美を成す。人の悪を成さず。小人は是れに反す。

17. 季康子、政を孔子に問う。孔子対（こた）えて曰わく、政とは正なり。子師（ひき）いて正しければ、孰（たれ）か敢（あ）えて正しからざらん。

18. 季康子、盜（とう）を患（うれ）えて孔子に問う。孔子対（こた）えて曰わく、苟（いやし）くも子の不欲ならば、これを賞すと雖ども窃（ねす）まざらん。

19. 季康子、政を孔子に問いて曰わく、如（も）し無道を殺して以て有道に就（つ）かば、如何。孔子対（こた）えて曰わく、子、政を為すに、焉（な）んぞ殺を用いん。子、善を欲すれば、民善ならん。君子の徳は風なり、小人の徳は草なり。草、これに風を上（くわ）うれば、必らず偃（ふ）く。

20. 子張問う、士何如（いか）になれば斯（こ）れを達（たつ）と謂うべき。子曰わく、何ぞや、爾（なんじ）の所謂（いわゆる）達とは。子張対（こた）えて曰わく、邦（くに）に在りても必らず聞こえ、家に在りても必らず聞こゆ。子曰わく、是れ聞（ぶん）なり、達に非ざるなり。夫れ達なる者は、質直（しっちよく）にして義を好み、言を察して色を觀（み）、慮（はか）って以て人に下（くだ）る。邦に在りても必らず達し、家に在りても必らず達す。夫れ聞なる者は、色に仁を取りて行ないは違（たが）い、これに居りて疑わず。邦に在りても必らず聞こえ、家に在りても必らず聞こゆ。

21. 樊遲（はんち）従いて舞雩（ぶう）の下（もと）に遊ぶ。曰わく、敢えて徳を崇（たか）くし慝（とく）を脩（おさ）め惑いを弁ぜんことを問う。子曰わく、善いかな、問うこと。事を先にして得ることを後にするは、徳を崇くするに非ずや。其の悪を攻めて人の悪を攻むる無きは、慝を脩むるに非ずや。一朝の忿（いきどお）りに其の身を忘れて以て其の親（しん）に及ばずは、惑いに非ずや。

22. 樊遲（はんち）、仁を問う。子曰わく、人を愛す。知を問う。子曰わく、人を知る。樊遲未だ達せず。子曰わく、直（なお）きを挙げて諸（こ）れを枉（まが）れるに錯（お）けば、能く枉れる者をして直からしめん。樊遲退（しりぞ）きて子夏に見（まみ）えて曰わく、嚮（さき）に吾れ夫子（ふうし）に見（まみ）えて知を問う。子曰わく、直きを挙げて諸れを枉れるに錯（お）けば、能く枉がれる者をして直からしめんと。何の謂いぞや。子夏が曰わく、富めるかな、是の言や。

舜（しゅん）、天下を有（たも）ち、衆に選んで皐陶（こうよう）を挙げしかば、不仁者は遠ざかれり。湯（とう）、天下を有ち、衆に選んで伊尹（いじん）を挙げしかば、不仁者は遠ざかれり。

23. 子貢、友を問う。子曰わく、忠告して善を以てこれを道（みち）びく。不可（ふか）なれば則ち止（や）む。自ら恥（はずかし）めらるること無かれ。

24. 曾子曰わく、君子は文を以て友を会し、友を以て仁を輔（たす）く。

論語卷第七

子路（しろ）第十三

1. 子路、政（せい）を問う。子曰わく、これに先んじ、これを勞す。益（えき）を請う。曰わく、倦むこと無かれ。
  2. 仲弓、季氏の宰（さい）と為りて、政を問う。子曰わく、有司（ゆうし）を先にし、小過（しょうか）を赦（ゆる）し、賢才（けんさい）を挙げよ。曰わく、焉（いず）くんぞ賢才を知りてこれを挙げん。曰わく、爾（なんじ）の知る所を挙げよ。爾の知らざる所、人其れ諸（こ）れを舍（す）てんや。
  3. 子路が曰わく、衛（えい）の君、子を持ちて政を為さば、子将（まさ）に奚（なに）をか先きにせん。子曰わく、必らずや名を正さんか。子路が曰わく、是れ有るかな、子の迂（う）なるや。奚（なん）ぞ其れ正さん。子曰わく、野（や）なるかな、由（ゆう）や。君子は其の知らざる所に於いては、蓋闕如（かつけつじょ）たり。名正しからざれば、則ち言（げん）順（したが）わず、言順わざれば則ち事成らず、事成らざれば則ち礼樂（れいがく）興らず、礼樂興らざれば則ち刑罰中（あた）らず、刑罰中らざれば則ち民（たみ）手足を措（お）く所なし。
- 故に君子はこれに名づくれば必らず言うべきなり。これを言えば必らず行なうべきなり。君子、其の言に於いて、苟（いやし）くもする所なきのみ。
4. 樊遲、稼（か）を学ばんと謂う。子曰わく、吾れ老農に如かず。圃（ほ）を為（つく）ることを学ばんと謂う。曰わく、吾れは老圃に如かず。樊遲出（い）ず。子曰わく、小人なるかな、樊須（はんす）や。上（かみ）礼を好めば、則ち民は敢えて敬せざること莫（な）し。上義を好めば、則ち民は敢えて服（ふく）せざること莫（な）し。上信を好めば、則ち民は敢えて情を用いざること莫し。夫れ是（か）くの如くんば、則ち四方の民は其の子を襁負（きょうふ）して至らん。焉んぞ稼を用いん。
  5. 子曰わく、詩三百を誦（しょう）し、これに授くるに政を以てして達せず、四方に使いして專（ひと）り対（こた）うること能わざれば、多しと雖ども亦た奚（なに）を以て為さん。
  6. 子曰わく、其の身正しければ、令せざれども行なわる。其の身正しからざれば、令すと雖ども従わず。
  7. 子曰わく、魯衛（ろえい）の政は兄弟なり。
  8. 子、衛の公子荊（けい）を謂（のたま）わく、善く室を居く。始め有るに曰わく、苟（いさき）か合う。少しく有るに曰わく、苟か完（まった）し。富（さかん）に有るに曰わく、苟か美（よ）し。
  9. 子、衛に適（ゆ）く。冉有（ぜんゆう）僕たり。子曰わく、庶（おお）きかな。冉有が曰わく、既に庶し。又た何をか加えん。曰わく、これを富ます。曰わく、既に富めり。又た何をか加えん。曰わく、これを教えん。
  10. 子曰わく、苟（いやし）くも我れを用うる者あらば、期月（きげつ）のみにして可（か）ならん。三年にして成すこと有らん。
  11. 子曰わく、善人、邦（くに）を為（おさ）むること百年、亦た以て残（ざん）に勝ちて殺（さつ）を去るべしと。誠なるかな、是の言（げん）や。
  12. 子曰わく、如（も）し王者あるも、必らず世にして後に仁ならん。
  13. 子曰わく、苟（いやし）くも其の身を正しくせば、政（せい）に従うに於いてか何か有らん。其の身を正しくすること能（あた）わざれば、人を正しくすることを如何（いかん）せん。
  14. 冉子（ぜんし）、朝（ちょう）より退く、子曰わく、何ぞ晏（おそ）きや。対（こた）えて曰わく、政（せい）あり。子曰わく、其れ事ならん。如（も）し政あらば、吾れを以（もち）いずと雖ども、吾れ其れこれと与（あずか）えい聞かん。

15. 定公問う。一言にして以て邦（くに）を興（た）さすべきこと諸（こ）れ有りや。孔子対（こた）えて曰わく、言（げん）は以て是（か）くの若（ごと）くなるべからざるも、其れ幾（ちか）きなり。人の言に曰わく、君たること難（がた）し、臣たること易（やす）からずと。如（も）し君たることの難（かた）きを知らば、一言にして邦を興（た）さすに幾（ちか）からずや。曰わく、一言にして以て邦を喪（ほろ）ぼすべきこと諸（こ）れ有りや。

孔子対（こた）えて曰わく、言は以て是（か）くの若（ごと）くなるべからざるも、其れ幾（ちか）きなり。人の言に曰わく、予（わ）れは君たることを楽しむこと無し。唯だ其の言にして予れに違（た）がうこと莫（な）きを楽しむなりと。如し其れ善にしてこれに違（た）うこと莫（な）くんば、亦た善からずや。如し不善にしてこれに違（た）うこと莫（な）くんば、一言にして邦を喪（ほろ）ぼすに幾（ちか）からずや。

16. 葉公、政を問う。子曰わく、近き者諸（よろこ）び遠き者来たる。

17. 子夏、莒父（きよほ）の宰（さい）と為（な）りて、政を問う。子曰わく、速やかならんと欲すること毋（な）かれ。小利を見ること毋（な）かれ。速やかならんと欲すれば則ち達せず。小利を見れば則ち大事成らず。

18. 葉公（しょうこう）、孔子に語りて曰わく、吾が党（とう）に直躬（ちよくきゅう）なる者あり。其の父、羊を攘（ぬす）みて、子これを証す。孔子の曰わく、吾が党の直（なお）き者は是れに異（こと）なり。父は子の為に隠し、子は父の為に隠す。直きこと其の中に在り。

19. 樊遲、仁を問う。子曰わく、居処（きよしょ）は恭に、事を執りて敬に、人に与（まじわ）りて忠なること。夷狄（いてき）に之（ゆ）くと雖ども、棄つべからざるなり。

20. 子貢、問いて曰わく、何如（いか）なるをか斯れを士と謂うべきか。子曰わく、己れを行なうに恥じあり、四方に使いして君命を辱（はずか）しめざる、士と謂うべし。曰わく、敢えて其の次を問う。曰わく、宗族（そうぞく）孝を称し、郷党（きょうとう）弟（てい）を称す。曰わく、敢えて其の次を問う。曰わく、言（げん）必らず信、行必らず果、經（こう）然（ぜん）たる小人なるかな。抑抑（そもそも）亦た以て次ぎと為すべし。曰わく、今の政に従う者は如何（いかん）。子曰わく、噫（ああ）、斗筭（とうす）の人、何ぞ算（かぞ）うるに足らん。

21. 子曰わく、中行（ちゅうこう）を得てこれに与（くみ）せずんば、必らずや狂狷（きやうけん）か。狂者は進みて取り、狷者は為さざる所あり。

22. 子曰わく、南人、言えること有り。曰わく、人にして恒（つね）なくんば、以て巫医（ふい）を為すべからずと。善いかな。其の徳を恒にせざれば、或るいはこれに羞（かたじけ）なす承（すす）めん。子曰わく、占（うらわ）わざるのみ。

23. 子曰わく、君子は和して同せず、小人は同じて和せず。

24. 子貢問うて曰わく、郷人（きょうじん）皆なこれを好（よみ）せば何如（いかん）。子曰わく、未だ可（か）ならざるなり。郷人皆なこれを悪（にく）まば何如。子曰わく、未だ可ならざるなり。郷人の善き者はこれを好（よみ）し、其の善からざる者はこれを悪（にく）まんに如（ごと）かざるなり。

25. 子曰わく、君子は事（つか）え易（やす）くして、説（よろこ）ばしめ難し。これを説（よろこ）ばしむるに道を以てせざれば、説（よろこ）ばざるなり。其の人を使うに及びては、これを器（うつわ）にす。小人は事（つか）え難くして説（よろこ）ばしめ易し。これを説（よろこ）ばしむるに道を以てせずと雖も、説（よろこ）ぶなり。其の人を使うに及びては、備（そな）わらんことを求む。

26. 子曰わく、君子は泰（ゆたか）にして驕（おご）らず。小人は驕りて泰（ゆたか）ならず。

27. 子曰わく、剛毅木訥（ごうきぼくとつ）、仁に近し。

28. 子路問いて曰わく、何如なるをか斯れこれを士と謂うべき。子曰わく、切切惻惻（せつせつししい）如（ごと）たる、士と謂うべし。朋友には、切切惻惻、兄弟（けいてい）には怡（よろこ）び如（ごと）たり。

29. 子曰わく、善人、民を教うること七年、亦た以て戒（じゆう）に即（つ）かしむべし。

30. 子曰わく、教えざる民を以て戦う、是れこれを棄（す）つと謂う。

憲問（けんもん）第十四

1. 憲（けん）、恥を問う。子曰わく、邦（くに）に道あれば穀（こく）す。邦に道なきに穀するは、恥なり。
2. 克（こく）・伐（ばつ）・怨（えん）・欲（欲）、行なわれざる、以て仁と為（な）すべし、子曰わく、以て難（かた）しと為すべし。仁は則ち吾れ知らざるなり。
3. 子曰わく、士にして居（きょ）を懐（おも）うは、以て士と為すに足らず。
4. 子曰わく、邦（くに）に道あれば、言を危（はげ）しくし行を危しくす。邦に道なければ、行を危しくして言は孫（したか）う。
5. 子曰わく、徳ある者は必らず言あり。言ある者は必らずしも徳あらず。仁者は必らず勇あり。勇者は必らずしも仁あらず。
6. 南宮适（なんきゅうかつ）、孔子に問いて曰わく、羿（げい）は射（しゃ）を善くし、冪（ごう）は舟を盪（うご）かす。俱（とも）に其の死を得ず。禹（う）と稷（しよく）とは躬（みずか）ら稼（か）として天下を有（たも）つ。夫子（ふうし）答えず。南宮适出ず。子曰わく、君子なるかな、若（かくのごと）き人。徳を尚（たつと）べるかな。若（かくのごと）き人。
7. 子曰わく、君子にして不仁なる者あらんか。未だ小人（しょうじん）にして仁なる者あらざるなり。
8. 子曰わく、これを受して能く勞すること勿（な）からんや。忠にして能く誨（おし）うること勿（な）からんや。
9. 子曰わく、命（めい）を為（つく）るに啤謹（ひじん）これを草創（そうそう）し、世叔（せいしゆく）これを討論し、行人（こうじん）子羽（しう）これを脩飾（しゅうしよく）し、東里の子産（しさん）これを潤色（じゅんしよく）す。
10. 或るひと子産を問う。子曰わく、恵人（けいじん）なり。子西（しせい）を問う。曰わく、彼れおや、彼れをや。管中（かんちゆう）を問う。（この）人や、伯氏（はくし）の駢邑（べんゆう）三百を奪（うば）い、疏食（そし）を飯（くら）いて齒（よわい）を没するまで怨言（えんげん）なし。
11. 子曰わく、貧しくして怨むこと無きは難（かた）く、富みて驕（おご）ること無きは易し。
12. 子曰わく、孟公（もうこう）綽（しゃく）、趙（ちょう）魏（ぎ）の老と為れば、則ち優。以て滕薛（とうせつ）の大夫（たうふ）と為すべからず。
13. 子路、成人を問う。子曰わく、臧武（ぞうぶ）仲（ちゆう）の知（ち）、公綽（こうしゃく）の不欲、卞莊子（べんそうし）の勇、冉求（ぜんきゆう）の藝（げい）の若（ごと）き、これを文（かぎ）るに礼楽を以てせば、亦た以て成人と為すべし。曰わく、今の成人は、何ぞ必らずしも然らん。利を見ては義を思い、危うきを見ては命（いのち）を授く、久要（きゅうよう）、平生の事を忘れざる、亦た以て成人と為すべし。
14. 子、公叔（こうしゆく）文子（ぶんし）を公明賈（こうめいか）に問いて曰わく、信（まこと）なるか、夫子の言わず、笑わず、取らざることを。公明賈対（こた）えて曰わく、以て告（もう）す者の過（あやま）ちなり。夫子、時にして然る後に言う、人其の言うことを厭（いと）わざるなり、楽しみて然る後に笑う、人其の笑うことを厭わざるなり。義にして然る後に取る、人其の取るのことに厭わざるなり。子曰わく、其れ然り。豈（あ）に其れ然らんや。
15. 子曰わく、臧武（ぞうぶ）仲（ちゆう）、防（ぼう）を以て魯（ろ）に後（のち）いたらんことを求む。君を要（よう）せずと曰うと雖ども、吾れは信ぜざるなり。
16. 子曰わく、晋（しん）の文公は、譎（いつわ）りて正しからず。齊（せい）の桓公（かんこう）は正しくて譎らず。
17. 子路が曰わく、桓公（かんこう）、公子（こうし）糾（きゆう）を殺す。召忽（しょうこつ）これに死し、管仲（かんちゆう）は死せず。曰わく、未だ仁ならざるか。子曰わく、桓公、諸侯を九合して、兵庫を以てせざるは、管仲の力なり。其の仁に如かんや。其の仁に如かんや。

18. 子貢が曰わく、管仲は仁者に非ざるか。桓公、公子糾（きゅう）して、死すること能わず、又たこれを相（たす）く。子曰わく、管仲、桓公を相けて諸侯に覇（は）たり、天下を一匡（いっきょう）す。民、今に到（いた）るまで、其の賜（し）を受く。管仲微（な）かせば、吾れ其れ髮（はつ）を被（こうむ）り衽（じん）を左にせん。豈（あ）に匹夫匹婦（ひっぷひっぷ）の諒（まこと）を為し、自ら溝瀆（こうとく）に徑（くび）れて知らるること莫（な）きが若（ごと）くならんや。

19. 公叔（こうしゅく）文子（ぶんし）の臣、大夫僕（せん）、文子と同じく公に升（のぼ）る。子これを聞きて曰わく、以て文を為すべし。

20. 子、衛（えい）の靈公（れいこう）の無道（むどう）なるを言う。康子（こうし）が曰わく、夫（そ）れ是（かく）の如くんば、奚（いか）にしてか喪（うし）なわざる。孔子の曰わく、仲（ちゅう）叔圉（しゅくぎよ）は賓客を治め、祝鮀（しゅくた）は宗廟（そうびょう）を治め、王孫賈（おうそんか）は軍旅を治む。夫れ是（か）くの如くんば、奚（いか）んぞ其れ喪（うし）なわん。

21. 子曰わく、其の言（げん）にこれ怍（は）じざれば、則ちこれを為すこと難（かた）し。

22. 陳成子（ちんせいし）、簡公（かんこう）を弑（しい）す。孔子、沐浴（もくよく）して朝（ちょう）し、哀公（あいこう）に告げて曰わく、陳恒（ちんこう）、其の君を弑す。請（こ）う、これを討（う）たん。公の曰わく、夫（か）の三子に告げよ。孔子の曰わく、吾れ大夫の後（しりえ）に従えるを以て、敢えて告げずんばあらざるなり。君の曰わく、夫（か）の三子者に告げよと。三子に之（ゆ）きて告ぐ。可（き）かず。孔子の曰わく、吾れ大夫の後に従えるを以て、敢えて告げずんばあらざるなり。

23. 子路、君に事（つか）えんことを問う。子曰わく、欺（あざむ）くこと勿（な）かれ。而（しか）してこれを犯（おか）せ。

24. 子曰わく、君子は上達す。小人（しょうじん）は下達（かたつ）す。

25. 子曰わく、古（いにし）えの学者は、己の為にし、今の学者は人の為にす。

26. 蘧伯（きよはく）玉（ぎょく）、人を孔子に使いせしむ。孔子これに坐を与えて問いて曰わく、夫子（ふうし）何をか為す。対（こた）えて曰わく、夫子は其の過（あやま）ち寡（すく）なからんことを欲して、未だ能（あた）わざるなり。使者出（い）ず。子曰わく、使いなるかな、使いなるかな。

27. 子曰わく、其の位に在らざれば、其の政（まつりごと）を謀（はか）らず。

28. 曾子（そうし）曰わく、君子は思うこと其の位を出（い）でず。

29. 子曰わく、君子は其の言（げん）の其の行（こう）に過ぐるを恥ず。

30. 子曰わく、君子の道なる者三つ。我れ能（よ）くすること無し。仁者は憂えず、知者は惑わず、勇者は懼（おそ）れず。子貢（しこう）が曰わく、夫子（ふうし）自ら道（い）うなり。

31. 子貢、人を方（たくら）ぶ。子曰わく、賜（し）や、賢なるかな。夫（そ）れ我れは則ち暇（いとま）あらず。

32. 子曰わく、人の己れを知らざることを患（うれ）えず、己れの能（のう）なきを患う。

33. 子曰わく、詐（いつわ）りを逆（おか）えず、信ぜられざるを億（おもんばか）らず、抑抑（そもそも）亦た先（ま）ず覺（さと）る者は、是れ賢か。

34. 微生畝（びせいほ）、孔子に謂いて曰わく、丘（きゅう）、何為（なんす）れぞ是れ栖栖（せいせい）たる者ぞ。乃（すなわ）ち佞（ねい）を為（な）すこと無からんや。孔子対（こた）えて曰わく、敢えて佞を為すに非ざるなり。固（こ）を疾（にく）むなり。

35. 子曰わく、驥（き）は其の力を称せず、其の徳を称す。

36. 或るひとの曰わく、徳を以て怨（うら）みに報（むく）いば、如何。子曰わく、何を以てか徳に報いん。直きを以て怨みに報い、徳を以て徳に報ゆ。

37. 子曰わく、我れ知ること莫（な）きかな。子貢曰く、何為（なんす）れぞ其れ子を知ること莫（な）からん。子曰わく、天を怨みず、人を尤（とが）めず。下学（かがく）して上達す。我れを知る者は其れ天か。 30

38. 公伯(こうはく)寮(りょう)、子路を季孫(きそん)に愬(うった)う。子服景伯(しゅくけいはく)以て告(もう)して曰わく、夫子(ふうし)固(もと)より公伯寮に惑(まど)える志し有り。吾が力猶(な)お能(よ)く諸(こ)れを市朝(しちょう)に肆(さら)さん。子曰わく、道の将(まさ)に行われんとするや、命(めい)なり。道の将に廢(はい)せんとするや、命なり。公伯寮、其れ命を如何。

39. 子曰わく、賢者は世(よ)を避(さ)く。其の次ぎは地を避(さ)く。其の次は色を避く。其の次は言を避く。子曰わく、作(な)す者七人。

40. 子路、石門(せきもん)に宿る。晨門(しんもん)の曰わく、奚(いず)れよりぞ。子路が曰わく、孔氏よりす。曰わく、是れ其の不可(ふか)なることを知りて而(しか)もこれを為(な)す者か。

41. 子、磬(けい)を衛(えい)に撃(う)つ。蕢(あじか)を荷(に)ないて孔氏の門を過ぐる者あり。曰わく、心あるかな、硜硜(こうこう)乎(こ)たり。己(おのれ)を知ること莫(な)くんば、斯(こ)れ已(や)まのみ。深ければ厲(れい)し、浅ければ掲(けい)す。子曰わく、果(か)なるかな。難(かた)きこと未(な)きなり。

42. 子張が曰わく、書に云う、高宗(こうそう)、諒陰(りょうあん)三年言(もの)いわずとは、何の謂(い)いぞや。子曰わく、何ぞ必らずしも高宗のみならん。古(いにし)えの人皆な然(しか)り。君薨(こう)ずれば、百官、己れを総(す)べて以て冢宰(ちょうざい)に聴(き)くこと三年なり。

43. 子曰わく、上(かみ)、礼を好(この)めば、則(すなわ)ち民(たみ)使い易(やす)し。

44. 子路、君子を問う。子曰わく、己れを脩(おさ)めて以て敬す。曰わく、斯(か)くの如きのみか。曰わく、己れを脩めて以て人を安んず。曰わく、斯くの如きのみか。曰わく、己れを脩めて以て百姓(ひやくせい)を安んず。己れを脩めて以て百姓を安んずるは、堯(ぎょう)・舜(しゅん)も其れ猶(な)お諸(こ)れを病(や)めり。

45. 原壤(げんじょう)、夷(い)して候(ま)つ。子曰わく、幼(よう)にして孫弟(そんてい)ならず、長じて述(の)ぶること無く、老いて死せず。是れを賊と為(な)す。杖を以て其の脛(はぎ)を叩(う)つ。

46. 闕党(けつとう)の童子(どうじ)、命(めい)を将(おこ)なう。或るひとこれを問いて曰わく、益者(えきしゃ)か。子曰わく、吾れ其の位に居(お)るを見る。其の先生と竝(なら)び行くを見る。益を求むる者に非ざるなり。速(すみ)かに成らんと欲する者なり。

1. 衛（えい）の靈公（れいこう）、陳（じん）を孔子に問う。孔子対（こた）えて曰わく、俎豆（そとう）の事は則ち嘗（かつ）てこれを聞けり。軍旅（ぐんりょ）の事は未だこれを学ばざるなり。明日（めいじつ）遂（つ）いに行（さ）る。
2. 陳（ちん）に在（いま）して糧（りょう）を絶（た）つ。従者（じゅうしゃ）病みて能（よ）く興（た）つこと莫（な）し。子路慍（いか）って見（まみ）えて曰わく、君子も亦（ま）た窮すること有るか。子曰わく、君子固（もと）より窮す。小人（しょうじん）窮すれば斯（ここ）に濫（みだ）る。
3. 子曰わく、賜（し）や、女（なんじ）予（わ）れを以て多くを学びてこれを識（し）る者と為すか。対（こた）えて曰わく、然（しか）り、非（ひ）なるか。曰わく、予れは一（いつ）以てこれを貫（つらぬ）く。
4. 子曰わく、由（ゆう）よ、徳を知る者は鮮（すく）なし。
5. 子曰わく、無為（むい）にして治まる者は其れ舜（しゅん）なるか。夫（そ）れ何をか為（な）さんや。己れを恭恭（うやうや）しくして正しく南面（なんめん）するのみ。
6. 子張、行なわれんことを問う。子曰わく、言（げん）忠信（ちゅうしん）、行 篤敬（とくけい）なれば、蛮貊（ばんぱく）の邦（くに）と雖ども行なわれん。言 忠信ならず、行 篤敬ならざれば、州里と雖ども行なわれんや。立ちては則ち其の前に参するを見、興（くるま）に在（あ）りては則ち其の衝（こう）に倚（よ）るを見る。夫（そ）れ然る後に行なわれん。子張、諸（こ）れを紳（しん）に書す。
7. 子曰わく、直なるかな史魚（しぎょ）。邦（くに）に道あるにも矢の如く、邦に道なきにも矢の如きし。君子なるかな蘧伯（きよはく）玉（ぎょく）。邦に道なければ則ち卷きてこれを懐（ふところ）にすべし。
8. 子曰わく、与（とも）に言うべくしてこれと言わざれば、人を失う。与に言うべからざるしてこれと言え、言（げん）を失う。知者（ちしゃ）は人を失わず。亦た言を失わず。
9. 子曰わく、志士（しし）仁人（じんじん）は、生（せい）を求めて以て仁を害すること無し。身を殺して以て仁を成すこと有り。
10. 子貢、仁を為さんことを問う。子曰わく、工（こう）、其の事を善くせんと欲すれば、必らず先ず其の器（き）を利（と）くす。是（こ）の邦に居りては、其の大夫の賢者に事（つか）え、其の士の仁者を友とす。
11. 顔淵、邦を為（おさ）めんことを問う。子曰わく、夏（か）の時を行ない、殷（いん）の輅（ろ）に乗り、周の冕（べん）を服し、楽（がく）は則ち韶（しょう）舞（ぶ）し、鄭声（ていせい）を放ちて佞人（ねいじん）を遠ざけよ。鄭声は淫（いん）に、佞人は殆し。
12. 子曰わく、人にして遠き慮（おもんばか）り無ければ、必らず近き憂い有り。
13. 子曰わく、已んぬるかな。吾れ未だ徳を好むこと色を好むが如くする者を見ざるなり。
14. 子曰わく、臧文仲（ぞうぶんちゅう）は其れ位を窃（ぬす）める者か。柳下惠（りゅうかけい）の賢を知りて与（とも）に立たず。
15. 子曰わく、躬（み）自ら厚くして、薄く人を責むれば、則ち怨みに遠ざかる。
16. 子曰わく、如之何（いかん）、如之何と曰わざる者は、吾れ如之何（いかん）ともすること未（な）きのみ。
17. 子曰わく、群居（ぐんきょ）して終日、言（げん）義に及ばず、好んで小慧（しょうけい）を行なう。難（かた）いかな。
18. 子曰わく、君子、義以て質と為し、礼以てこれを行ない、孫（そん）以てこれを出（い）だし、信以てこれを成す。君子なるかな。
19. 子曰わく、君子は能なきことを病（うれ）う。人の己れを知らざることを病えず。



20. 子曰わく、君子は世（よ）を没（お）えて名の称せられざることを疾（にく）む。
21. 子曰わく、君子は諸（こ）れを己れに求む。小人（しょうじん）は諸れを人に求む。
22. 子曰わく、君子は矜（きょう）にして争わず、群して党（とう）せず。
23. 子曰わく、君子は言を以て人を挙げず、人を以て言を廃せず。
24. 子貢問うて曰わく、一言にして以て終身（しゅうしん）これを行なうべき者ありや。子曰わく、其れ恕（じょ）か。己れの欲せざる所、人の施すこと勿（な）かれ。
25. 子曰わく、吾れの人に於けるや、誰（たれ）をか毀（そし）り誰をか誉（ほ）めん。如（も）し誉（ほ）むる所の者あらば、其れ試みる所あり。斯（こ）の民や、三代の直道（ちよくどう）にして行なう所以（ゆえん）なり。
26. 子曰わく、吾れは猶（な）お史（し）の文を闕（か）き、馬ある者は人に借（か）してこれに乗らしむるに及べり。今は則ち亡（な）きかな。
27. 子曰わく、巧言（こうげん）は徳（とく）を乱（みだ）る。小、忍びざれば、則ち大謀（たいぼう）を乱る。
28. 子曰わく、衆これを悪（にく）むも必らず察（さつ）し、衆これを好むも必らず察す。
29. 子曰わく、人能（よ）く道を弘（ひろ）む。道、人を弘むるに非ず。
30. 子曰わく、過（あやま）ちて改めざる、是を過ちと謂う。
31. 子曰わく、吾れ嘗（かつ）て終日食らわず、終夜寝（い）ねず、以て思う。益（えき）なし。学ぶに如かざるなり。
32. 子曰わく、君子は道を謀（はか）りて食を謀らず。耕すも餒（う）え其の中（うち）に在（あ）り、学べば禄（ろく）は其の中（うち）に在（あ）り。君子は道を憂えて貧しきを憂えず。
33. 子曰わく、知はこれに及べども仁これを守ること能（あた）わざれば、これを得ると雖も必らずこれを失う。知はこれに及び仁に能（よ）くこれを守れども、莊以てこれに泣（のぞ）まざれば、則ち民は敬せず。知はこれに及び仁能くこれを守り、莊以てこれに泣（のぞ）めども、これを動かすに礼を以てせざれば、未だ善ならざるなり。
34. 子曰わく、君子は小知すべからずして、大受すべし。小人は大受すべからずして、小知すべし。
35. 子曰わく、民の仁に於けるや、水火よりも甚だし。水火は吾れ蹈（ふ）みて死する者を見る。未だ仁を蹈みて死する者を見ざるなり。
36. 子曰わく、仁に当たりては、師にも譲らず。
37. 子曰わく、君子は貞にして、諒（りょう）ならず。
38. 子曰わく、君に事（つか）えては、其の事を敬（けい）して其の食を後（あと）にする。
39. 子曰わく、教えありて類なし。
40. 子曰わく、道同じからざれば、相い為めに謀らず。
41. 子曰わく、辞（じ）は達するのみ。
42. 師冕見（しべんまみ）ゆ。階（かい）に及べり。子曰わく、階なり。席に及べり。子曰わく、席なり。皆な坐（ざ）す。子これに告げて曰わく、某（ぼう）は斯（ここ）に在り。師冕出（い）ず。子張問いて曰わく、師と言うの道か。子曰わく、然り。固（もと）より師を相（たす）くるの道なり。

## 季氏第十六

1. 季氏、将（まさ）に顓臾（せんゆ）を伐（う）たんす。冉有（ぜんゆう）・季路、孔子に見まえて曰わく、季氏、将に顓臾に事あらんとす。孔子の曰わく、求（きゅう）よ、乃（すなわ）ち爾（なんじ）是れ過ちてること無からんや。夫れ顓臾は、昔者（むかし）先生以て東蒙（とうもう）の主と為し、且つ邦城の中に在り。是れ社稷（しゃしよく）の臣なり。何を以てか伐つことを為さん。冉有が曰わく、夫（か）の子これを欲す。吾れ二臣は皆な欲せざるなり。孔子の曰わく、求（きゅう）よ、周任に言あり曰わく、力を陳（の）べて列に就き、能（あた）わざれば止むと。

危うくして辞（じ）せず、顛（くつがえ）って扶（たす）けんずんば、則ち将（は）た焉（いづく）んぞ彼（か）の相（しょう）を用いん。且つ爾（なんじ）の言は過（あやま）てり。虎兕（こじ）、柙（こう）より出で、龜玉（きぎよく）、櫝（とく）中に毀（こ）われば、是れ誰の過ちぞや。冉有が曰わく、今夫れ顓臾は固くして費に近し。今取らざんば、後世必らず子孫の憂いと為らん。孔子の曰わく、求よ、君子は夫（か）のこれを欲すと曰（い）うを舍（お）いて必らずこれが辞を為すことを疾（にく）む。

丘（きゅう）や聞く、国を有（たも）ち家を有つ者は寡（すく）なきを患（うれ）えずして均しからざるを患え、貧しきを患えずして安らかざるを患うと。蓋（けだ）し均しければ貧しきこと無く、和すれば寡なきこと無く、安ければ傾くこと無し。夫れ是（か）くの如し、故に遠人（えんじん）服せざれば則ち文徳を修めて以てこれを來たし、既にこれを來たせば則ちこれを安んず。今、由（ゆう）と求とは夫（か）の子を相（たす）け、遠人服せざれども來たすこと能わず、邦（くに）分崩離析（りせき）すれども守ること能わず、而して干戈（かんか）を邦内に動かさんことを謀る。

吾れ恐る、季孫の憂いは顓臾に在らずして、蕭牆（しょうしょう）の内に在らんことを。

2. 孔子の曰わく、天下道あれば、則ち礼楽征伐（れいがくせいばつ）、天子より出（い）ず。天下道なければ、則ち礼楽征伐、諸侯より出ず。諸侯より出ずれば、蓋（けだ）し十世にして失わざること希（すく）なし。大夫（たいふ）より出ずれば、五世にして失わざること希なし、陪臣（ばいしん）国命を執（と）れば、三世にして失わざること希なし。天下道あれば、則ち政（せい）は大夫に在らず。天下道あれば、則ち庶人は議せず。

3. 孔子の曰わく、禄（ろく）の公室を去ること五世なり。政の大夫に逮（およ）ぶこと四世なり。故に夫（か）の三垣（さんかん）の子孫は微（び）なり。

4. 孔子の曰わく、益者（えきしゃ）三友、損者三友。直きを友とし、諒（まこと）を友とし、多聞を友とするは、益なり。便辟（べんへき）を友とし、善柔を友とし、便佞（べんねい）を友とするは、損なり。

5. 孔子の曰わく、益者三樂（さんらく）、損者三樂、礼楽（れいがく）を節せんことを楽しみ、人の善を道（い）うことを楽しみ、賢友多きを楽しむは、益なり。驕楽（きょうらく）を楽しむ、佚遊（いつゆう）を楽しむ、宴楽（えんらく）を楽しむは、損なり。

6. 孔子の曰わく、君子に侍（じ）するに三愆（さんけん）あり。言（げん）未だこれに及ばずして言う。言これに及びて言わざる、これを隱と謂う。未だ顔色を見ずして言う、これを瞽（こ）と謂う。

7. 孔子の曰わく、君子に三戒（さんかい）あり。少（わか）き時は血氣未だ定まらず、これを戒むること色に在り。其の莊なるに及んでは血氣方（まさ）に剛（ごう）なり、これを戒むること鬪（とう）に在り。其の老いたるに及んでは血氣既に衰う、これを戒むること得（とく）に在り。

8. 孔子の曰わく、君子に三畏（さんい）あり。天命を畏（おそ）れ、大人（だいじん）を畏れ、聖人の言を畏れる。小人は天命を知らずして畏れず、大人に狎（な）れ、聖人の言を侮（あなど）る。

9. 孔子の曰わく、生まれながらにしてこれを知る者は上（かみ）なり。学びてこれを知る者は次ぎなり。困（くるし）みてこれを学は又た其の次なり。困みて学ばざる、民斯れを下（しも）と為す。

10. 孔子の曰わく、君子に九思あり。視（み）るには明を思い、聴くには聡（そう）を思い、色には温を思い、貌（かたち）には恭を思い、言（げん）には忠を思い、事には敬を思い、疑わしきには問を思い、忿（いかり）には難を思い、得（う）るを見ては義を思う。

11. 孔子の曰わく、善を見ては及ばざるが如くし、不善を見ては湯を探（さぐ）るが如くす。吾れ其の人を見る、吾れ其の語を聞く。隠居して以て其の志しを求め、義を行いて以て其の道を達す。吾れ其の語を聞く、未だ其の人を見ず。

12. 孔子の曰わく、誠に富みを以てせず、亦た祇（ただ）に異を以てす。齊（せい）の景公、馬千駟（し）あり。死するの日、民徳（とく）として称すること無し。伯夷（はくい）・叔齊（しゅくせい）、首陽の下（もと）に餓う。民今に到るまでこれを称す。其れ斯れをこれ謂うか。

13. 陳亢（ちんこう）、伯魚（はくぎょ）に問うて曰わく、子も亦た異聞ありや。対（こた）えて曰わく、未（いま）だし。嘗（かつ）て独り立てり。鯉（り）趨（はし）りて庭を過ぐ。曰わく、詩を学びたりや。対えて曰わく、未だし。詩を学ばずんば、以て言うこと無し。鯉退きて詩を学ぶ。他日又た独り立てり。鯉趨りて庭を過ぐ。曰わく、礼を学びたりや。対えて曰わく、未だし。礼を学ばずんば、以て立つこと無し。鯉退きて礼を学ぶ。斯の二者（にしゃ）を聞けり。陳亢退きて喜びて曰わく、一を聞いて三を得たり。詩を聞き、礼を聞き、又た君子の其の子を遠ざくるを聞く。

14. 邦君（ほうくん）の妻、君これを称して夫人と謂う。夫人自ら称して小童と曰う。邦人これを称して君夫人（くんふじん）と曰う。異邦に称して寡（か）小君と曰う。異邦の人これを称して君夫人と曰う。

1. 陽貨（ようか）、孔子を見んと欲す。孔子見（まみ）えず。孔子に豚を帰（おく）る。孔子其の亡（な）きを時として往きてこれを拝す。塗（みち）に遇（あ）う。孔子に謂いて曰わく、来たれ。予（わ）れ爾（なんじ）と言わん。曰わく、其の宝を懐（いだ）きて其の邦を迷わす、仁と謂うべきか。曰わく、不可なり。事に従うを好みて亟々（しばしば）時を失う。知と謂うべきか。曰わく、不可なり。日月逝（ゆ）く、歳（とし）我れと与（とも）ならず。孔子の曰わく、諾（だく）。吾れ将（まさ）に仕えんとす。

2. 子曰わく、性、相（あい）近し。習えば、相い遠し。

3. 子曰わく、唯（た）だ上智（じょうち）と下愚（げぐ）とは移らず。

4. 子、武城に之（ゆ）きて弦歌（げんか）の声を聞く。夫子（ふうし）莞爾（かんじ）として笑いて曰わく、鷄（にわとり）を割（さ）くに、焉（いづく）んぞ牛刀を用いん。子游対（こた）えて曰わく、昔者偃（むかしえん）や諸（こ）れを夫子に聞けり、曰わく、君子道を学べば則ち人を愛し、小人（しょうじん）道を学べば則ち使い易しと。子曰わく、二三子（にさんし）よ、偃の言是（げんぜ）なり。前言はこれに戯（たわむ）れしのみ。

5. 公山（こうざん）不擾（ふじょう）、費を以て畔（そむ）く。召（まね）く。子往かんと欲す。子路説（よろこ）ばずして曰わく、之（ゆ）くこと末（な）きのみ。何ぞ必ずしも公山氏にこれ之かん。子曰わく、夫（そ）れ我れを召く者にして、豈（あ）に徒（ただ）ならんや。如（も）し我れを用うる者あらば、吾れは其れ東周を為さんか。

6. 子張、仁を孔子に問う。孔子の曰わく、能く五つの者を天下に行なうを仁と為す。これを請（こ）い問う。曰わく、恭寛信敏恵なり。恭なれば則ち悔られず、寛なれば則ち衆を得、信なれば則ち人任じ、敏なれば則ち功あり、恵なれば則ち以て人を使うに足る。

7. 佛肸（ひつきつ）、召く。子往かんと欲す。子路が曰わく、昔者（むかし）由（ゆ）や諸（こ）れを夫子に聞けり、曰わく、親（みずか）ら其の身に於いて不善を為す者は、君子は入らざるなりと。佛肸、中牟（ちゅうぼう）を以て畔（そむ）く。子の往くや、これを如何。子曰わく、然り、是の言有るなり。堅しと曰わざらんや、磨（ま）すれども磷（うすろ）がず。白しと曰わざらんや、涅（でっ）すれども緇（くろ）まず。吾れ豈（あ）に匏（ほう）瓜（か）ならんや。焉（いづく）んぞ能く繫（かか）りて食らわれざらん。

8. 子曰わく、由よ、女（なんじ）六言の六蔽（へい）を開けるか。対（こた）えて曰わく、未（いま）だし。居れ、吾れ女（なんじ）に語（つ）げん。仁を好みて学を好まざれば、其の蔽（へい）や愚。知を好みて学を好まざれば、其の蔽や蕩（とう）。信を好みて学を好まざれば、其の蔽や賊。直を好みて学を好まざれば、其の蔽や絞（こう）。勇を好みて学を好まざれば、其の蔽や乱。剛を好みて学を好まざれば、其の蔽や狂。

9. 子曰わく、小子（しょうし）、何ぞ夫（か）の詩を学ぶこと莫（な）きや。詩は以て興（お）こすべく、以て觀るべく、以て群すべく、以て怨むべし。邇（ちか）くは父に事（つか）え、遠くは君に事え、多くは鳥獸草木の名を識る。

10. 子、伯魚（はくぎよ）謂いて曰わく、女（なんじ）周南・召南を為（まな）びたるか。人にして周南・召南を為（まな）ばずんば、其れ猶（な）お正しく牆（かき）に面して立つがごときか。

11. 子曰わく、礼と云い礼と云うも、玉帛（ぎょくはく）を云わんや、楽（がく）と云い楽と云うも、鐘鼓（しょうこ）を云わん。

12. 子曰わく、色厲（はげ）しくして内荏（やわらか）なるは、諸（こ）れを小人（しょうじん）に譬（たと）うれば、其れ猶（な）お穿窬（せんゆ）の盜（とう）のごときか。

13. 子曰わく、郷原（きょうげん）は徳の賊なり。

14. 子曰わく、道に聴きて塗（みち）に説くは、徳をこれ棄（す）つるなり。

15. 子曰わく、鄙夫（ひふ）は与（とも）に君に事（つか）うべけんや。其の未だこれを得ざれば、これを得んことを患（うれ）え、既にこれを得れば、これを失わんことを患う。苟（いやし）くもこれを失わんことを患うれば、至らざる所なし。

16. 子曰わく、古者（いにしえ）、民に三疾（しつ）あり。今や或いは是れ亡（な）きなり。古（いにし）えの狂や肆（し）、今の狂や蕩（とう）。古えの矜（きょう）や廉（れん）、今の矜や忿戾（ふんれい）。古えの愚や直、今の愚や詐（さ）のみ。

17. 子曰わく、巧言令色（こうげんれいしよく）鮮（すく）なし仁。

18. 子曰わく、紫の朱を奪うを悪（にく）む。鄭声（ていせい）の雅楽（がらく）を乱るを悪む。利口の邦家を覆（くつがえ）すを悪む。

19. 子曰わく、予（わ）れ言うこと無からんと欲す。子貢が曰わく、子如（も）し言わずんば、則ち小（しょう）子（し）何をか述べん。子曰わく、天河をか言うや。四時行われ百物生ず。天河をか言うや。

20. 孺悲（じゅひ）、孔子に見（まみ）えんと欲す。孔子辞するに疾（やまい）を以てす。命（めい）を將（おこ）なう者、戸を出（い）ず。瑟（しつ）を取りて歌い、これをして聞かしむ。

21. 宰我（さいが）問う、三年の喪（も）は期（き）にして已（すで）に久し。君子三年礼を為さずんば、礼必らず壊（やぶ）れん。三年樂（がく）を為さずんば、樂必らず崩（くず）れん。旧穀既に没（つ）きて新穀既に升（みの）る、燧（すい）を鑽（き）りて火を改む。期して已（や）むべし。子曰わく、夫（か）の稻を食（く）らい、夫の錦を衣（き）る、女（なんじ）に於いて安きか。曰わく、安し。

女（なんじ）安くんば則ちこれを為（な）せ。夫（そ）れ君子の喪（も）に居る、旨（うま）きを食らうも甘からず、樂（がく）を聞くも楽しからず、居處（きょしょ）安からず、故に為さざるなり。今女（なんじ）安くんば則ちこれを為せ。宰我出（い）ず。子曰わく、予（よ）の不仁なるや、子（こ）生まれて三年、然る後に父母の懷（ふところ）を免（まぬが）る。夫れ三年の喪（も）は天下の通喪（つうそう）なり。予（よ）や、其の父母に三年の愛あらんか。

22. 子曰わく、飽（あ）くまで食らいて日を終え、心を用うる所なし、難（かた）いかな。博奕（はくえき）なる者あらずや。これを為（な）すは猶（な）お已むに賢（まさ）れり。

23. 子路が曰わく、君子、勇を尚（とうと）ぶか。子曰わく、君子、義以て上（かみ）と為す。君子、勇ありて義なければ乱を為す。小人（しょうじん）、勇ありて義なければ盗を為す。

24. 子貢問いて曰わく、君子も亦（ま）た悪（にく）むこと有りや。子曰わく、悪（にく）むこと有り。人の悪を称する者を悪（にく）む。下（しも）に居て上（かみ）を訕（そし）る者を悪（にく）む。勇にして礼なき者を悪む。果敢（かかん）にして窒（ふさ）がる者を悪む。曰わく、賜（し）や亦た悪むこと有りや。徼（かす）めて以て知と為す者を悪む。不遜（ふそん）にして以て勇と為す者を悪む。訐（あば）きて以て直と為す者を悪む。

25. 子曰わく、唯（た）だ女子と小人（しょうじん）とは養い難（がた）しと為す。これを近づくれば則ち不遜（ふそん）なり。これを遠ざくれば則ち怨む。

26. 子曰わく、年四十にして悪（にく）まるるは、其れ終わらんのみ。

## 微子第十八

1. 微子（びし）はこれを去り、箕子（きし）はこれが奴（ど）と為（な）り、比干（ひかん）は諫（いさ）めて死す。孔子の曰わく、殷（いん）に三仁あり。
2. 柳下惠（りゅうかけい）、士師（しし）と為り、三たび黜（しりぞ）けらる。人の曰わく、子未だ以て去るべからざるか。曰わく、道を直（なお）しくして人に事（つか）えうれば、焉（いず）くに往くとして三たび黜けられざらん。道を枉（ま）げて人に事うれば、何ぞ必らずしも父母の邦（くに）を去らん。
3. 齊（せい）の景公、孔子を待つに曰わく、季氏（きし）の若（ごと）きは則ち吾れ能（あた）わず。季孟の間を以てこれを待たん。曰わく、吾れ老いたり、用うること能わざるなり。孔子行（さ）る。
4. 齊人（せいひと）、女樂（じょがく）を帰（おく）る。季桓子（きかんし）これを受く。三日朝（ちょう）せず。孔子行（さ）る。
5. 楚（そ）の狂（きょう）接輿（せつよ）、歌いて孔子を過ぐ、曰わく、鳳（ほう）よ鳳よ、何ぞ徳の衰えたる。往く者は諫（いさ）むべからず。来たる者は猶（な）お追うべし。已（や）みなん已みなん。今の政（せい）に従う者は殆（あや）うし。孔子下（お）りてこれと言わんと欲す。趨（はしり）てこれを辟（さ）く。これとすることを得ず。
6. 長沮（ちょうそ）・桀溺（けつでき）、耦（ぐう）して耕す。孔子これを過ぐ。子路をして津（しん）を問わしむ。長沮が曰わく、夫（か）の輿（よ）を執（と）る者は誰と為（な）す。子路が曰わく、孔丘と為す。曰わく、是れ魯（ろ）の孔丘か。対（こた）えて曰わく、是れなり。曰わく、是れならば津を知らん。  
桀溺に問う。桀溺が曰わく、子は誰とか為す。曰わく、仲由と為す。曰わく、是れ魯の孔丘の徒か。対えて曰わく、然り。曰わく、滔々（とうとう）たる者、天下皆是れなり。而（しか）して誰か以てこれを易（か）えん。且つ而（なんじ）其の人を辟（さ）くるの士に従わんよりは、豈（あ）に世を辟くるの士に従うに若（し）かんや。耷（ゆう）して輟（や）まず。子路以て告（もう）す。夫子（ふうし）憮然（ぶぜん）として曰わく、鳥獸は与（とも）に群を同じくすべからず。吾れ斯（こ）の人の徒と与（とも）にするに非ずして誰と与にかせん。天下道あらば、丘は与に易（か）えざるなり。
7. 子路従いて後（おく）れたり。丈人（じょうじん）の杖（つえ）を以て篠（あじか）を荷（に）なうに遇う。子路問いて曰わく、子、夫子を見るか。丈人の曰わく、四体勤めず、五穀分かつたず、孰（たれ）をか夫子と為さん。其の杖を植（た）てて芸（くさぎ）する。子路拱（きょう）して立つ。子路を止（とど）めて宿（しゆく）せしめ、鷄（にわとり）を殺し黍（きび）を為（つく）りてこれに食らわしめ、其の二子を見（まみ）えしむ。明日（めいじつ）、子路行きて以て告（もう）す。  
子曰わく、隱者なり。子路をして反（かえり）てこれを見しむ。至れば則ち行（さ）る。子路が曰わく、仕えざれば義なし。長幼の節は廢すべからざるなり。君臣の義はこれを如何（いかん）ぞ其れ廢すべけんや。其の身を潔（きよ）くせんと欲して大倫を乱る。君子の仕うるや、其の義を行なわんとなり。道の行なわれざるや、已（すで）にこれを知れり。
8. 逸民（いつみん）は、伯夷（はくい）・叔齊（しゆくせい）・虞仲（ぐちゆう）・夷逸（いいつ）・朱張（しゅちょう）・柳下惠（りゅうかけい）・少連（しょうれん）。子曰わく、其の志（し）を降（くだ）さず、其の身を辱（はずかし）めざるは、伯夷・叔齊か。柳下惠・少連を謂（のたま）わく。志を降し身を辱しむ、言（倫）に中（あた）り、行慮（りょ）に中る、其れ斯れのみ。虞仲・夷逸を謂わく。隱居して放言し、身（清）に中り、廢（権）に中る。我れは則ち是れに異なり、可（か）も無く不可も無し。
9. 大師（たいし）摯（し）は齊（せい）に適（ゆ）く。亜（あ）飯干（はんかん）は楚（そ）に適く。三飯繚（りょう）は蔡（さい）に適く。四飯缺（けつ）は秦（しん）に適く。鼓方（こほう）叔（しゆく）は河（い）に入る。播（は）鼂武（とうぶ）は漢（かん）に入る。少師陽・擊磬（げきけい）襄（じょう）は海（うみ）に入る。

10. 周公、魯公に謂（い）いて曰わく、君子は其の親（しん）を施（す）てず、大臣（たいしん）をして以（もち）いざるに怨みしめず、故旧（こきゅう）、大故（たいこ）なければ、則ち棄てず。備わるを一人に求むること無かれ。

11. 周に八士あり、伯達（はくたつ）・伯适（はくはつ）・仲突（ちゅうとつ）・仲忽（ちゅうこつ）・叔夜（しゅくや）・叔夏・季随（きずい）・季駟（きか）。

論語卷第十

子張（しちょう）第十九

1. 子張が曰わく、士は危うきを見ては命（いのち）を致し、得るを見ては義を思い、祭りには敬を思い、喪（も）には哀を思う。其れ可（か）ならんのみ。
2. 子張が曰わく、徳を執（と）ること弘（ひろ）からず、道を信ずること篤（あつ）からずんば、焉（いづく）んぞ、能く有りと為（な）さん、焉んぞ能く亡（な）しと為さん。
3. 子夏の門人、交わりを子張に問う。子張が曰わく、子夏は何とか云える。対（こた）えて曰わく、子夏が曰わく、可（か）なる者はこれに与（くみ）し、其の不可なる者はこれを距（ふせ）がんと。子張が曰わく、吾が聞く所に異なり。君子、賢を尊びて衆を容（い）れ、善を嘉（よみ）して不能を矜（あわれ）む。我れの大賢ならんか。人に於いて何の容れざる所あらん。我れの不賢ならんか、人將（は）た我れを距（ふせ）がん。これを如何（いかに）ぞ其れ人を距がんや。
4. 子張が曰わく、小道と雖も必ず観るべき者あり。遠きを致さんには泥（なず）まんことを恐る、是（ここ）を以て君子は為（な）さざるなり。
5. 子夏が曰わく、日々に其の亡（な）き所を知り、月々に其の能くする所を忘るること無し。学を好むと謂うべきのみ。
6. 子夏が曰わく、博（ひろ）く学びて篤（あつ）く志し、切（せつ）に問いて近く思う、仁其中（うち）に在り。
7. 子夏が曰わく、百工、肆（し）に居て以て其の事を成す。君子、学びて以て其の道を致す。
8. 子夏が曰わく、小人の過（あやま）つや、必ず文（かぎ）る。
9. 子夏が曰わく、君子に三変あり。これを望めば儼然（げんぜん）たり、これに即（つ）けば温なり、其の言を聴けば厲（はげ）し。
10. 子夏が曰わく、君子、信ぜられて而（しか）して後（のち）に其の民を勞す。未だ信ぜられざれば則ち以て己れを厲（や）ましむと為（な）す。信ぜられて而して後に諫（いさ）む。未だ信ぜられざれば則ち以て己を謗（そし）ると為す。
11. 子夏が曰わく、大徳は閑（のり）を踰（こ）えず。小徳は出入して可（か）なり。
12. 子游が曰わく、子夏の門人小子（しょうし）、洒掃（さいそう）応対進退に当たりては則ち可（か）なり。抑抑未なり。これを本（もと）づくれば則ち無し。これを如何。子夏これを聞きて曰わく、噫（ああ）、言游（げんゆう）過（あやま）てり。君子の道は執（いず）れをか先にし伝え、孰れをか後に倦（う）まん。諸（こ）れを草木の区して以て別あるに譬（たと）う。君子の道は焉（いづく）んぞ誣（し）うべけんや。始め有り卒（お）わり有る者は、其れ唯（た）だ聖人か。
13. 子夏が曰わく、仕えて優なれば則ち学ぶ。学びて優なれば則ち仕う。
14. 子游が曰わく、喪（も）は哀（あい）を致して止（や）む。
15. 子游が曰わく、吾が友張（ちょう）や、能（よ）くし難（がた）きを為（な）す。然れども未だ仁ならず。
16. 曾子の曰わく、堂堂たるかな張や、与（とも）に並んで仁を為（な）し難し。
17. 曾子の曰わく、吾れ諸（こ）れを夫子（ふうし）に聞けり、人未だ自ら致す者有らず。必ずや親の喪（も）か。
18. 曾子の曰わく、吾れ諸（こ）れを夫子に聞けり、孟莊子の孝や、其の他は能くすべきなり。其の父の臣と父の政（せい）とを改めざるは、是れ能くし難きなり。
19. 孟氏、陽膚（ようふ）をして士師（しし）たらしむ。曾子に問う。曾子の曰わく、上（かみ）其の道を失いて、民散ずること久し。如（も）し其の情を得ば、則ち哀矜（あいきょう）して喜ぶこと勿かれ。
20. 子貢が曰く、紂（ちゅう）の不善や、是（か）くの如くこれ甚だしからざるなり。是（ここ）を以て君子は下流（かりゅう）に居ることを惡む。天下の惡皆な焉（こ）れに歸す。



21. 子貢が曰く、君子の過（あやま）ちや、日月の蝕（しょく）するが如し。過つや人皆なこれを見る、更（あらた）むるや人皆なこれを仰ぐ。

22. 衛の公孫朝、子貢に問いて曰く、仲尼（ちゅうじ）焉（いづく）にか学べる。子貢が曰わく、文武の道、未だ地に墜（お）ちずして人に在り。賢者（けんじゃ）は其の大なる者を識るし、不賢者は其の小なる者を識す。文武の道あらざること莫（な）し。夫子（ふうし）焉（いづく）にか学ばざらん。而して亦（ま）た何の常師（じょうし）かこれ有らん。

23. 叔孫武叔、大夫に朝（ちょう）に語りて曰わく、子貢は仲尼（ちゅうじ）より賢（まさ）れり。子服景伯（しふくけいはく）以て子貢に告ぐ。子貢が曰わく、諸（こ）れを宮牆（きゅうしょう）に譬（たと）うれば、賜（し）の牆や肩に及（の）べり、室家の好きを闕（うかが）い見ん。夫子の牆や数仞（じん）、其の門を得て入らざれば、宗廟（そうびょう）の美・百官の富を見ず。其の門を得る者、或いは寡（すく）なし。夫（か）の子の云うこと、亦た宜（うべ）からずや。

24. 叔孫武叔、仲尼（ちゅうじ）を毀（そし）る。子貢が曰わく、以て為（な）すこと無かれ。仲尼は毀るべからざるなり。他人の賢者は丘陵（きゅうりょう）なり。猶（な）お踰（こ）ゆべきなり。仲尼は日月なり、得て踰ゆること無し。人自ら絶たんと欲すと雖ども、其れ何ぞ日月を傷（やぶ）らんや。多（まさ）に其の量を知らざるを見るなり。

25. 陳子禽（ちんしきん）、子貢に謂いて曰わく、子は恭（きょう）を為すなり。仲尼、豈（あ）に子より賢（まさ）らんや。子貢が曰わく、君子は一言以て知と為し、一言以て不知と為す。言は慎しまざるべからざるなり。夫子（ふうし）の及べからざるや、猶（な）お天の階（かい）して昇（のぼ）るべからざるがごときなり。

夫子にして邦家を得るならば、所謂（いわゆる）これを立つれば斯（ここ）に立ち、これを道（みち）びけば斯に行（したが）い、これを綏（やす）んずれば斯に来たり、これを動かせば斯に和す、其の生くるや榮え、其の死するや哀しむ。これを如何（いかん）ぞ其れ及ぶべけんや。

堯日（ぎょうえつ）第二十

1. 暁（ぎょう）の曰わく、咨（ああ）、爾（なんじ）瞬（しゅん）、天の曆数、爾の躬（み）に在り。允（まこと）に其の中（ちゅう）を執（とれ）。四海困窮（こんきゅう）。天祿（てんろく）永く終えん。瞬も亦た禹（う）に命ず。「湯」（とう）曰わく、予（わ）れ小子履（しょうしり）、敢（あ）えて玄牡（げんぼ）を用（もつ）て、敢えて昭（あきら）かに皇皇（こうこう）后帝（こうてい）に告（もう）す。罪あるは敢えて赦（ゆる）さず、帝臣蔽（かく）さず、簡（えら）ぶこと帝の心に在り。

朕（わ）が躬（み）罪あらば、万方を以てすること無けん。万方罪あらば、罪は朕（わ）が躬（み）に在らん。周に大賚（たいらい）あり、善人は是れ富む。周親（しん）ありと雖ども仁人に如かず。百姓（ひやくせい）過（あやま）ち有らば予れ一人に在らん。

2. 権量（けんりょう）を謹（つつ）しみ、法度を審（つまびら）かにし、廢官を修むれば、四方の政（せい）行なわれん。滅国を興（お）こし、絶世を継ぎ、逸民を挙ぐれば、天下の民、心を帰（き）せん。重んずる所は、民、食、喪（そう）、祭。

3. 寛なれば則ち衆を得、信なれば則ち民任じ、敏（びん）なれば則ち功あり、公なれば則ち説（よろこ）ぶ。

4. 子張、孔子に問いて曰わく、如何（いか）なれば斯（こ）れ以て政（せい）に従うべき。子曰わく、五美を尊び四悪を屏（しりぞ）ければ、斯（こ）れ以て政に従うべし。子張が曰わく、何をか五美と謂う。子曰わく、君子、恵（けい）して費（つい）えず、勞して怨（うら）みず、欲して貧（むさぼ）らず、泰（ゆたか）にして驕（おご）らず、威して猛（たけ）からず。

子張が曰わく、何をか恵して費えずと謂う。子曰わく、民の利とする所に因（よ）りてこれを利す、斯れ亦（ま）た恵いして費えざるにあらずや。

其の勞すべきを挾（えら）んでこれに勞す、又た誰をか怨みん。仁を欲して仁を得たり、又た焉（なに）をか貧らん。君子は衆寡（しゅうか）と無く、小大と無く、敢（あ）えて慢（あなど）ること無し、斯れ亦た泰にして驕らざるにあらずや。

君子は其の衣冠（いかん）を正しくし、其の瞻視（せんし）を尊くして、儼然（げんぜん）たり、人望みてこれを畏る、斯れ亦た威にして猛（たけ）からざるにあらずや。

子張が曰わく、何をか四悪と謂う。子曰わく、教えずして殺す、これを虐（ぎゃく）と謂う。戒めずして成るを觀る、これを暴（ぼう）と謂う。令を慢（ゆる）くして期を致す、これを賊と謂う。猶（ひと）しく人に与うるに出内（すいとう）の吝（やぶさか）なる、これを有司（ゆうし）と謂う。

5. 孔子の曰わく、命（めい）を知らざれば、以て君子たること無きなり。礼を知らざれば、以て立つこと無きなり。言を知らざれば、以て人を知る事無きなり。